

2019年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

地域課題解決実践カリキュラムの開発・実証

沖縄県における外国人留学生の地域定着支援プログラムの開発・実証事業

成 果 報 告 書

2020年3月

一般社団法人 沖縄専門人材開発研究会

本報告書は、文部科学省の生涯学習振興事業委託費による委託事業として、《一般社団法人 沖縄専門人材開発研究会》が実施した 2019 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をまとめたものです。

2019 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
地域課題解決実践カリキュラムの開発・実証
沖縄県における外国人留学生の地域定着支援プログラムの開発・実証事業

成果報告書

発行者：一般社団法人 沖縄専門人材開発研究会

発行：2020 年 3 月

目次

第1章 事業概要

第1節	事業の趣旨・目的	3
第2節	実施体制	4
第3節	事業内容概説	5
第4節	今年度における具体的な取り組み	8

第2章 教材プロトタイプ追加開発

第1節	概要	11
第2節	日本文化・社会教育	12
第3節	キャリア教育	15
第4節	日本型コンピテンシー教育	19
第5節	まとめ	23

第3章 実証講座

第1節	概要	24
第2節	eラーニング学習サイト	35
第3節	講座アンケート結果分析	39
第4節	まとめ	55

第4章 教育プログラム開発

第1節	概要	57
第2節	教材本格開発	58
第1項	日本文化・社会教育	58
第2項	キャリア教育	62

第3項	日本型コンピテンシー教育	65
第3節	シラバス開発	68
第4節	eラーニング教材プロトタイプ開発	70
第1項	日本文化・社会教育	70
第2項	キャリア教育	75
第5節	まとめ	78

附録

- ① 日本文化・社会教育教材 ベトナム語翻訳
- ② 日本文化・社会教育教材 実証講座用コンテンツ教材
- ③ キャリア教育教材 IT人材のキャリア
- ④ キャリア教育教材 ベトナム語翻訳
- ⑤ キャリア教育教材 実証講座用コンテンツ教材
- ⑥ 日本型コンピテンシー教育教材 就職活動 PBL
- ⑦ 職業キャリア 日本語版
- ⑧ 職業キャリア 英語版
- ⑨ 職業キャリア ベトナム語版
- ⑩ 実証講座アンケート
- ⑪ 日本文化・社会教育教材 日本の基礎知識
- ⑫ キャリア教育教材 自動車整備士のキャリア
- ⑬ 日本型コンピテンシー教育教材 泡盛振興 PBL
- ⑭ 講座シラバス
- ⑮ 沖縄のくらし eラーニング解説動画用資料
- ⑯ IT人材のキャリア eラーニング解説動画用資料

第1章 事業概要

第1節 事業の趣旨・目的

沖縄県では地域産業を担う人材の不足が深刻化している。入域観光客の増加が著しく、特に外国人観光客は5年前と比較して約7倍となった。これに対応するため、地域企業各社は人材確保に努めているが、県内の若手人口の流出が続き、特にサービス系産業において業務遂行に大きな支障を生じるほどの人材不足に陥っている。この状況に端を発して、沖縄県では近年、外国人活用の動きが盛んとなっており、外国人依存度が急速に上昇している。特に留学生に対する期待は大きく、もとより外国人が多く駐留する地域特性から外国人が比較的定着しやすく、留学生にも沖縄県での定着・就職が望まれる。

しかしながら、留学生の日本・沖縄県での定着・就職を更に促進するためには、言語や文化の違いを踏まえ、日本への適応力を向上させる必要がある。

そこで本事業では、外国人留学生を対象に日本的価値観、日本的行動様式、日本でのキャリア形成等に関わる知識・スキルを醸成する教育プログラムを開発・実証する。

この取組を通じて、留学生の日本への適応力向上を支援し、地域定着を促進することで、沖縄県の人材不足という課題解決に寄与していく。

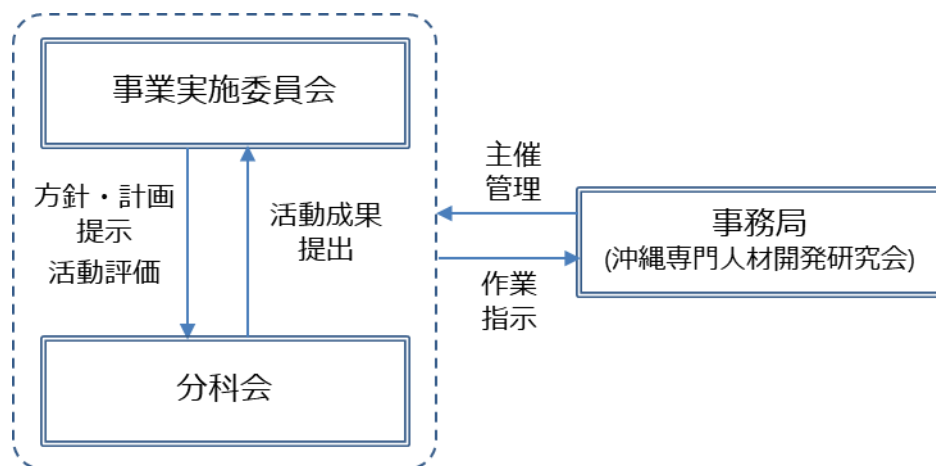
第2節 実施体制

本事業では事業実施に際して、各連携機関と共同で下図の体制を構築し、運用する。

事業の推進主体として、「事業実施委員会」を設置する。当該委員会では連携する行政機関、教育機関、業界企業・団体が参画する。ここでは、事業計画に基づいて事業活動の全体の方針や各事業活動の計画等について議論を行う。また、各事業成果について評価を行い、必要に応じて方針修正や改訂内容を検討する。

さらに、事業実施委員会で議論された方針・計画に基づき、各事業活動を具体化・推進する組織として「分科会」を設立する。分科会には当団体（社団法人沖縄専門人材開発研究会）をはじめ、事業に参画する連携機関から選抜された者、および外部協力者が参画し、各事業活動推進に伴う実作業を遂行する。活動成果については事業実施委員会に提出し、その評価を受けて適宜修正等を行うことで品質を管理する。

また、本事業全体の事務局機能は当団体が保有し、連携機関等との事務連絡、会合準備、支出管理、請負業者の手配・管理等を行う。



本事業における構成委員は以下の通りである。

	氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1	宮里 智樹	(一社)沖縄専門人材開発研究会	統括	沖縄県
2	島袋 永伸	専門学校日経ビジネス	開発・実証	沖縄県
3	儀間 智	専門学校琉球リハビリテーション学院	開発・実証	沖縄県
4	呉屋 良昭	専門学校琉美インターナショナルビュー ティカレッジ	開発・実証	沖縄県
5	屋宜 宣秀	専門学校 IT カレッジ沖縄	開発・実証	沖縄県
6	辻野 信成	専修学校パシフィックテクノカレッジ学院	開発・実証	沖縄県
7	比嘉 良行	(株)OCC	評価	沖縄県
8	町田 岳司	(株)ロワジール・ホテルズ沖縄	評価	沖縄県
9	照屋 周	医療法人陽心会	評価	沖縄県
10	渡真利 哲	(公社)沖縄情報産業協会	評価	沖縄県
11	米谷 保彦	(一財)日本旅行業協会 沖縄支部	評価	沖縄県
12	金城 透	(一社)沖縄県自動車整備振興会	評価	沖縄県

第3節 事業内容概説

本節では、本事業における3年間の実施内容について列挙していく。3年間の事業取組としては以下のとおりである。

■平成30年度

○取組(1) 実態調査

- ・ 沖縄県内外国人留学生の就職等に関する実態調査
 - － 沖縄県内企業対象アンケート調査
 - － 沖縄県内外国人留学生対象アンケート調査

○取組(2) 事例調査

- ・ ソーシャルスキル教育教材事例調査
 - － 日本文化・社会教育教材
 - － キャリア教育教材
 - － 日本型コンピテンシー教育教材

○取組(3) 教育プログラム開発

- ① ソーシャルスキル評価指標開発
- ② カリキュラム開発
- ③ 教材プロトタイプ開発
 - － 日本文化・社会教育（テキスト教材）
 - － キャリア教育（テキスト教材）
 - － 日本型コンピテンシー教育（PBL教材）

○取組(4) 会議開催

- ① 実施委員会開催
 - － 場所：沖縄県内
 - － 時期：10月,12月,2月
- ② 分科会開催
 - － 場所：沖縄県内
 - － 時期：10月,12月,2月

■ 2019年度

○取組(1) 教材プロトタイプ追加開発

前年度に開発した「日本文化・社会教育」「キャリア教育」「日本型コンピテンシー教育」教材の追加開発。

○取組(2) 実証講座

- ・プロトタイプ検証を目的とする実証講座
- －対象：専修学校 2～3 校 各沖縄県内留学生 10 名程度
- －期間：1 週間程度

○取組(3) 教育プログラム開発

- ① シラバス開発
- ② 教材本格開発
 - － 日本文化・社会教育（テキスト教材）
 - － キャリア教育（テキスト教材）
 - － 日本型コンピテンシー教育（PBL 教材）
- ③ eラーニング教材プロトタイプ開発
 - － 日本文化・社会教育（講義映像）
 - － キャリア教育（講義映像）

○取組(4) 会議開催

- ① 実施委員会開催
 - － 場所：沖縄県内
 - － 時期：8月,11月,2月
- ② 分科会開催
 - － 場所：沖縄県内
 - － 時期：8月,11月,2月

■ 2020年度

○取組(1) 教育プログラム開発

- ① eラーニング教材本格開発

- 日本文化・社会教育（講義映像）
- キャリア教育（講義映像）
- ② 指導要領開発（実施モデル含む）

○取組(2) 実証講座

- ・教育プログラム検証を目的とする実証講座
- 対象：専修学校 2~3 校 各沖縄県内留学生 10 名程度
- 期間：3 か月程度

○取組(3) 会議開催

- ① 実施委員会開催
 - 場所：沖縄県内
 - 時期：8月,11月,2月
- ② 分科会開催
 - 場所：沖縄県内
 - 時期：8月,11月,2月

第4節 今年度における具体的な取り組み

2019年度ではまず、前年度開発した教材プロトタイプ¹の追加開発を行った。そのうえで、ソーシャルスキル評価指標、カリキュラム、教材プロトタイプ²の有効性・妥当性等を検証するために、本事業連携機関を含む沖縄県内の専修学校に協力を得て、外国人留学生を対象とする1週間程度の実証講座を実施した。さらに、各科目のシラバス作成と教材の本格開発を実施した。また、講義が主となる「日本文化・社会教育」「キャリア教育」の2科目については、外国人留学生が専門課程の学習と並行して柔軟に本プログラムの学習を進められるように講義映像形式のeラーニング教材のプロトタイプ開発を行った。各活動について以下に記載する。

・取組(1) 教材プロトタイプ追加開発

前年度に開発した「日本文化・社会教育」「キャリア教育」「日本型コンピテンシー教育」の教材の追加開発を行った。「日本文化・社会教育」では、前年度に開発した沖縄に関する教材に対し修正・追加作業を行った。「キャリア教育」では、前年度の成果物である「IT人材のキャリア」の原稿を元に教材化した。「日本型コンピテンシー教育」では前年度開発したPBL教材の評価検討および修正を実施した。

・取組(2) 実証講座

前年度から今年度前半までに開発した教材プロトタイプ³の検証を目的とする実証講座を実施した。講座は、本事業連携機関を含む沖縄県内の専修学校等に協力を得て、現在沖縄県の専修学校等に在籍している外国人留学生10名程度を対象とした。実施期間は、各科目1～2コマを設定し、期間は1週間程度である。

・取組(3) 教育プログラム開発

実証講座の結果分析を踏まえ、シラバス開発および教材開発を実施した。また、

e ラーニング教材のプロトタイプ開発として、映像を含んだ教材の開発を行った。

① シラバス開発

前年度に開発したカリキュラムや実証講座、教材プロトタイプをもとに授業内容やスケジュールなどについて具体化した。

② 教材本格開発

各科目のテキスト教材開発を行った。

「日本文化・社会教育教材」では、昨年度開発した沖縄県に関する教材に加えて、日本全体に共通する知識を学べる教材を作成した。

「キャリア教育教材」では、介護・ITに加えて、自動車整備士に関する教材を開発した。

「日本型コンピテンシー教育」として、留学生が分野共通的に取り組める内容の PBL 教材の開発を実施した。

③ e ラーニング教材プロトタイプ開発

e ラーニング教材のプロトタイプについては、実証講座終了後の実施委員会において、開発した教材を元に、音声や映像を追加することによって、より有用性を高める作業を行った。

取組(4) 会議開催

本事業を推進するにあたり、沖縄県内にて計 3 回の実施委員会および分科会を開催した。

第2章 教材プロトタイプ追加開発

第1節 概要

本章では、昨年度本事業にて開発した「日本文化・社会教育教材」「キャリア教育教材」「日本型コンピテンシー教育教材」の3科目それぞれの教材プロトタイプをもとに、今年度実施した教材プロトタイプ追加開発について述べていく。

まず、「日本文化・社会教育教材」では、沖縄の文化や歴史などを学習する「沖縄の暮らし」の追加開発を行った。実施内容としては、学生教材の修正・追記および実証講座で活用するためのベトナム語翻訳作業である。

次に、「キャリア教育教材」では、昨年度は原稿のみまでの開発となっていた「IT人材のキャリア」について追加開発を実施した。原稿内容に沿うイラストを追加し、冊子化した。また、「日本文化・社会教育教材」と同様に、実証講座で活用するために、ベトナム語翻訳も行った。

そして、「日本型コンピテンシー教育教材」においては、留学生が日本で就職活動を行う際に活用するPBL教材の修正作業および、就職活動がイメージしやすい動画の作成を実施した。

今年度の教材プロトタイプの追加開発において、「日本文化・社会教育教材」と「キャリア教育教材」の2科目については実際の講座を想定した実証講座にて活用を可能とするための修正・追加作業である。「日本型コンピテンシー教育教材」に関しては、昨年度開発時点では、就職活動を一般的に学習する教材に近かったが、より留学生の就職活動に特化した内容構成に修正した。

第2節 日本文化・社会教育教材

本節では、日本文化・社会教育教材の追加開発として実施した「沖縄の暮らし」の教材の修正作業および、ベトナム語翻訳作業について述べていく。

まず、修正作業についてである。昨年度成果報告書提出時に生じていた誤字脱字の修正やルビの修正をした。ルビの修正について、昨年度開発時には、PowerPointにてテキストの挿入を活用して、漢字の上部にひらがなを添えていた。しかし、PowerPointのバージョンが異なる場合、ルビのテキストが当初の位置とは異なる位置に表示されていた。実証講座にて活用する際に、ずれが生じないためにテキスト同士をグループ化するなどの工夫を行った。また、いくつかのスライドにおいて他とは違うフォントで作成されている箇所があったため、その修正作業も行った。具体的には、「伝統的な沖縄の家」において、通常は「游ゴシック」で作成されているところ「MSPゴシック」にて、構成されていたため、「游ゴシック」に統一した。さらに、実証講座にて活用することを想定し、ノートの説明文について修正を行った。以下は昨年度提出時と今年度の修正作業後の比較について一例を示したものである。

①ルビの修正作業

昨年度



今年度修正後



②フォント修正作業

昨年度(MS Pゴシック)



今年度修正後(游ゴシック)



次に、ベトナム語翻訳作業について記していく。今年度実施した翻訳作業は「沖縄の暮らし」の教材全体ではなく、実証講座にて活用する範囲を対象とした。翻訳を行ったのは、

- ・「沖縄の家庭料理」
- ・「沖縄の島どうふ・おかし」
- ・「伝統的な沖縄の家」
- ・「シーサーと石敢當の役割」
- ・「最近の沖縄の家」
- ・「那覇の市場」
- ・「沖縄の魚屋・肉屋」
- ・「沖縄の祭り」

の8項目である。

翻訳作業の目的は、学習者が e ラーニング上で本教材を学習する際に長い文章や固有名詞など、ナレーションを上手く聞き取れなかった場合に補助機能として字幕を取り入れることである。今年度実施した実証講座では、翻訳したベトナム語をスライドの下部に表記し、日本語のナレーションに沿って表示させた。(詳細は第3章に記述)

ベトナム語翻訳を行ったのには、近年ベトナム人留学生数の比率が高いことに加えて、実証講座を実施した専門学校にもベトナム国籍の学生が比較的多く

在籍していることに理由がある。

翻訳の対象とした文章は、学習教材のスライドに表示されている単語や文章ではなく、各スライドのノートに記した説明文である。この説明文は、口語体で記述されており、学習者が e ラーニングで学ぶ際に流れるナレーションに活用される文章である。

翻訳の仕方については、一般的な文章はベトナム語で理解しやすいように翻訳し、「ゴーヤ」や「エイサー」などの固有名詞や沖縄の方言については意識するのではなく、ローマ字表記としている。

以下に、実際に翻訳した文章の一例を掲載する。

«日本語»

“伝統的な沖縄の料理を理解するには、「チャンプルー」「イリチー」「ンブシー」の3つの料理法をおぼえておきましょう。

「チャンプルー」は、いため料理のことです。もとは「まぜあわせる」という意味のことばで、豆腐などを加えていためます。

「イリチー」は「いため煮」のことで、いためた食材に、だし汁を加えて煮る料理です。

そして「ンブシー」は、みそ味のいため煮です。”

↓

«ベトナム語»

Để hiểu về ẩm thực truyền thống của Okinawa, hãy thuộc lòng 3 phương pháp chế biến sau: "Chanpurū", "Irichī" và "Unbushī".

"Chanpurū" là món xào. Nó vốn có nghĩa là "Trộn lẫn", nên khi xào sẽ cho thêm đậu phụ v.v..

"Irichī" là "Xào kho", nên sau khi xào nguyên liệu sẽ đổ thêm nước dùng vào để kho.

Còn "Unbushī" là xào kho vị Miso.

上記の例のように、「チャンプルー」や「イリチー」などの固有名詞や沖縄の方言については、発音がわかるようにローマ字表記としている。

第3節 キャリア教育教材

「キャリア教育教材」の追加開発では、「IT 人材のキャリア」を対象とした。具体的には、イラストの追加および冊子化と、実証講座において、一部を e ラーニング教材として活用するための教材化である。教材内容は、昨年度と同じである。

「IT 分野 職業理解」

「IT 分野 職業意識」

「IT 分野 職業人コンピテンシー」

「IT 分野 職業キャリア形成」

の4つの大項目から構成されている。大項目は、それぞれ2つずつ中項目も設け、合計18の小項目で構成した。以下に、本キャリア教育教材のカリキュラム表を提示する。

大項目	中項目	小項目
IT分野 職業理解	IT人材とは何か IT人材の役割・意義と職種を知る	01. IT人材の役割・仕事
		02. IT人材の現場
	IT業界の最新動向 社会の動きとIT業界の動向を知る	03. ITをめぐる社会の動き
		04. IT業界の動向
IT分野 職業意識	IT人材の職業意識① 組織・社会の一員としてのIT人材の心構えを知る	05. 社会的責任を担うIT人材の心構え① 倫理と規範
		06. 社会的責任を担うIT人材の心構え② 顧客志向とコンプライアンス
		07. チームワークにおけるIT人材の心構え
	IT人材の職業意識② 個人としてのIT人材の心構えを学ぶ	08. 専門職としてのIT人材の心構え
		09. サービス業としてのIT人材の心構え
		10. IT人材の自己管理に関する心構え
IT分野 職業人コンピテンシー	IT人材に必要な能力① チームワークで働くIT人材が習得すべき能力を考える	11. IT人材のビジネススキル
		12. チームワークを強化する人間対応力
	IT人材に必要な能力② 専門職業人として日々の研鑽が必要なIT人材が習得すべき能力を考える	13. IT人材のラーニングスキル
		14. サービス業としてのIT人材の視点
IT分野 職業キャリア形成	IT人材のキャリアパス形成① 様々なIT人材のキャリアパスを考える	15. IT人材となるまでのキャリアパス
		16. IT人材のキャリアパス
	IT人材のキャリアパス形成② IT人材としての自分のキャリアを考える	17. IT人材のキャリアプラン
		18. IT人材のキャリアビジョン

まず、教材のイラスト追加および冊子化である。教材中のイラストは、小項目ごとのキーワードなどをもとに作成した。作成したイラストは、学習者が学習内容をイメージしやすく、理解の促進に寄与するようにページの中央部に配置している。開発した教材の一部を紹介する。



16 IT人材のキャリアパス

様々なIT人材のキャリアパスを考える

IT人材のキャリアパスは、職種型で多様！

- ITエンジニア
- システムエンジニア
- プログラマー
- ITオペレーター
- ITインフラエンジニア
- ITサポート
- IT販売
- IT営業
- IT管理
- IT教育
- IT研究
- IT開発
- IT企画
- IT運用
- IT保守
- IT監視
- IT運用
- IT保守
- IT監視

IT人材のキャリアパスは、職種型で多様！

15 IT人材のキャリアパス

様々なIT人材のキャリアパスを考える

基本情報技術者試験 合格

理工系大学 IT系専門学校 文系大学

19

次に、実証講座で e ラーニング教材として活用するために、一部をプレゼンテーションコンテンツ教材化した。今年度の実証講座で活用したテーマは以下の通りである。

大項目	中項目	小項目
IT 分野 職業理解	IT 人材とは何か	IT 人材の役割・仕事
	IT 人材の役割・意義と職種を知る	IT 人材の現場
	IT 業界の最新動向 社会の動きと IT 業界の 動向を知る	IT をめぐる社会の動き
		IT 業界の動向
IT 分野 職業キャリア形成	IT 人材のキャリアパス形成①	IT 人材となるまでのキャリアパス
	様々な IT 人材のキャリアパスを考える	IT 人材のキャリアパス
	IT 人材のキャリアパス形成②	IT 人材のキャリアプラン
	IT 人材としての自分のキャリアを考える	IT 人材のキャリアビジョン

e ラーニング教材として活用するための開発内容としては、まず冊子化した教材の各小項目で挙げられている要点やキーワードを抽出した。次に、抽出した要点やキーワードに含まれる漢字にルビを追加し、留学生が容易に理解可能な教材とした。

また、今年度に作成したイラストも添付し、学習者にとってイメージが付きやすいように配置を工夫した。

次ページにて、開発した教材の一部を紹介する。全編については付録を参照。

【IT 分野 職業理解】

職業理解
IT人材とは何か -IT人材の役割と職種を知る
～ IT人材の役割・仕事～

■役割
ユーザーの業務を効率化、他社よりも早く新しいサービスや製品を提供する。

■仕事
お互いに協力し合いながら仕事を進める。
【例】アーキテクトやSE、ITスペシャリスト、オペレーションetc...

▼ユーザーニーズとプロダクト

マーケットイン
→ユーザーや市場が求めるITシステムを開発する

プロダクトアウト
→ITを提供する企業側の視点から良いと思うITシステムを開発する

【IT 分野 職業キャリア形成】

職業キャリア形成
IT人材のキャリア形成① 様々なIT人材のキャリアパスを考える
～ IT人材となるまでのキャリアパス～

■IT人材を目指すキャリアパス

- ①IT系専門学校
- ②理工系の大学
- ③それ以外の専門学校や大学etc..

■基本情報技術者試験
IT関連では最も一般的な**国家資格**です。
ITに関する基本的な知識や技能と、実践的な活用能力を問われます。

▼その他のIT関連資格
IT関連の国家資格としては、基本情報技術者試験の他にも、ITストラテジストなど11種類もあります。

第4節 日本型コンピテンシー教育教材

日本型コンピテンシー教育教材における追加開発は、昨年度開発した「留学生の就職活動 PBL」である。学習テーマや学習設定、実施時間については昨年度と同じである。今年度の追加開発としては、「PBL 教材の修正」と「動画の作成」の2点を実施した。

以下にそれぞれの実施内容を記していく。

①PBL 教材の修正

まず、不要な手順の削除である。昨年度開発した学習の手順としては、

- 1 「自己分析」
- 2 「業界研究」
- 3 「企業分析」
- 4 「エントリーシート」
- 5 「面接」

という5段階であった。しかし、専門学校生は、就職する業界についてはある程度決まっているため、働く業界を決めるための「自己分析」の項目を割愛した。よって、最終的に4段階の手順となっている。

次に、留学生に特化した内容の追加である。「企業分析」において、留学生ならではの強みや弱みの分析、留学生ならではの企業情報収集について学習する項目を追加した。

さらに、PBL内のケーススタディのケースを追加した。状況としては、「学習者がIT系企業への就職を目指している」という設定である。架空のIT企業への就職活動を行う状況と、そのケーススタディを学習する際に必要となる企業資料を追加した。

そして、デザインの修正も行った。PBL教材全体のデザインをリファインし、より学習しやすいように配置の修正や、背景の追加を行った。

PBLの修正については、以上の4項目を実施した。昨年度の開発時において

も、留学生の就職活動をテーマとして開発を行っていたが、本事業の実施委員会における委員の提案などを積極的に取り入れることによって、留学生がより実践的に学習できる内容になった。

②動画の作成

2つ目の実施内容が「動画の作成」である。学習者がPBL教材を学習する際に、単に手順に沿って学習を行うのではなく、予め学習内容に関する数分程度のアニメーション動画を視聴することによって、イメージを持ちやすくすることが目的である。

今年度作成した動画は、

- ・「就職活動とは何か」
- ・「企業分析」
- ・「応募」
- ・「面接」

以上4つである。それぞれの内容のあらすじを紹介する。

「就職活動とは何か」では、留学生の女性が専門学校の教員に就職活動とは何かを尋ねるシーンから始まる。質問を受けた教員は、就職活動の一連の流れを説明し、就職したい企業の探し方を教えている。

「企業分析」では、留学生の女性が就職したいと思う企業を見つけた状態から始まる。応募の準備はどうするのかを教員に尋ねたところ、教員に企業の採用について情報収集することを勧められる。OG訪問の可能性や応募に必要なもの・条件の調査について調べることが必要と伝える。

「応募」では、エントリーシートと履歴書について教員が端的に説明している。

「面接」は、留学生の女性が面接会場に向かい、実際に面接を受けるシーンである。企業の受付や面接官も登場し、面接を疑似体験する内容となっている。それぞれの動画の1シーンを以下に提示する。

①「就職活動とは何か」



②「企業分析」



③「応募」



④「面接」



第5節 まとめ

本章では、今年度を実施した教材プロトタイプを追加開発について記述してきた。追加開発を行った教材プロトタイプは、昨年度事業で開発した「日本文化・社会教育教材」「キャリア教育教材」「日本型コンピテンシー教育教材」それぞれの教材である。

第1節では、2節以降の実施内容について概要をまとめている。

第2節では、「日本文化・社会教育教材」の「沖縄の暮らし」の追加開発について述べた。追加開発作業としては、スライドの修正作業とベトナム語翻訳の2種類に分かれる。スライドの修正作業では、ルビの修正とフォントの調整を行った。ベトナム語翻訳では、翻訳の概要について一例を示しながら説明した。

第3節では、「キャリア教育教材」の追加開発として、「IT 人材のキャリア」に関する実施項目を記述した。実施内容は、カリキュラムの小項目ごとの内容に沿ったイラストの作成と、原稿とイラストを組み合わせた冊子化である。開発した冊子の一部を例として掲載している。

第4節では、「日本型コンピテンシー教育教材」の「留学生の就職活動 PBL」における追加開発について説明した。追加開発内容は大きく2つの項目に分けられる。1つ目が、PBL教材の修正および改訂である。2つ目は、留学生がイメージを持ちやすい動画の作成である。PBLの修正・改訂では、不要な項目の削除やケーススタディの追加、教材のデザインの改訂作業を行った。動画については、「就職活動とは何か」「企業分析」「応募」「面接」の4項目から構成され、数分程度で視聴できるように開発した。

「日本文化・社会教育教材」と「キャリア教育教材」の2科目については、実証講座にて活用するための修正・発展作業であった。「日本型コンピテンシー教育教材」に関しては、より留学生の就職活動に特化した内容構成に修正した。

今年度実施した、教材プロトタイプを追加開発の説明については以上である。

第3章 実証講座

第1節 概要

本章では、昨年度開発し、今年度に追加開発を行った教材プロトタイプを検証として実施した実証講座について説明していく。

まず、実証講座の概要である。今年度の実証講座は2020年1月31日～2月7日にかけて沖縄県の専門学校 IT カレッジ沖縄にて実施した。実施方法としては、集合学習を1月31日と2月7日の合計2回、その間の1週間の期間で個人学習をeラーニング学習形式で実施した。

対象は、専門学校 IT カレッジ沖縄に在籍する外国人留学生で現在2年生の13名である。実証講座の概要は以下の通りである。

期間	2020年1月31日～2月7日
場所	学校法人フジ学園 専門学校 IT カレッジ沖縄
対象	IT カレッジ沖縄に在籍する外国人留学生 13名
目的	2018～2019年度開発の教材プロトタイプ検証
内容	【日本文化・社会教育】 : 「沖縄の暮らし」 【キャリア教育】 : 「IT人材のキャリア」 「職業キャリア」

・実証講座のスケジュールと学習内容

≪第1回実証講座(1/31)≫

実施	学習形式	項目	時間	内容	合計時間	講師
第 1 回 1/31	集 合 学 習	開会	13:50 ～ 14:00	・講師挨拶 ・講座趣旨説明	3h	宮 里
		講義・演習1	14:00 ～ 15:20	・沖縄知識確認テスト ・「沖縄の暮らし」オーバービュー（講義） ・「沖縄の暮らし」eラーニング（演習）		
		休憩	15:20 ～ 15:35			
		講義・演習2	15:35 ～ 16:35	・「IT人材のキャリア」オーバービュー（講義） ・「IT人材キャリア」eラーニング（演習）		
		閉会	16:35 ～ 16:50	・次回講義説明		

○講義・演習1

- ① 沖縄知識確認テスト :
留学生の沖縄の文化などの知識度を測る。
- ② 「沖縄の暮らし」オーバービュー(講義) :
学習内容・構成の説明、eラーニングの使い方説明
- ③ 「沖縄の暮らし」eラーニング(演習) :
eラーニングの扱い方を確認しつつ2コマ分実施
実施項目：「沖縄の家庭料理」「沖縄の島豆腐・おかし」

・ 沖縄知識確認テスト

沖縄のくらし 確認テスト

名前 : _____

(1) おきなわ えいよう 沖縄で栄養のある食事しよくじ なん よを何と呼びますか？

- 1 ムーチー
- 2 クスイムン
- 3 チャンプルー
- 4 ンブシー

(2) 「チャンプルー」のいみ意味としてただ正しいのはどれですか？

- 1 ゆでる
- 2 まぜあわせる
- 3 たたく
- 4 やく

(19) おきなわ ぼん きかん 沖縄のお盆の期間である旧暦きゅうれきの7月15日に、ご先祖様せんぞさまをお送りおくするために踊る伝統的おど でんとうてきな踊りおどの名前なまえは何なんですか？

- 1 テイサー
- 2 マチャーシー
- 3 エイサー
- 4 カチャーシー

(20) 旧暦きゅうれきに5月4日は沖縄おきなわでは何なんと呼ばれるよでしょうか？

- 1 ナカヌヒー
- 2 ウークイ
- 3 ユッカヌヒー
- 4 シチグワチ

・「沖縄の暮らし」講義資料

学習コンテンツ①

おきなわ
「沖縄の暮らし」
こうざ えんしゅう
一講義・演習1
おきなわ かてい りょうり おきなわ しま
「沖縄の家庭料理」 「沖縄の島どうぶ・おかし」
おきなわ
こじん がくしゅう
一個人学習
おきなわ でんとうてき いえ いしがんとく やくわり まいきん おきなわ いえ
「沖縄の伝統的な家」 「シーサーと石敢當の役割」 「最近の沖縄の家」
な ほ いちば おきなわ まかなゆ にくや おきなわ まつ
「那覇の市場」 「沖縄の魚屋・肉屋」 「沖縄の祭り」
こうざ えいざう 講義映像
かくだん 確認テスト
かいせつ どうが 解説動画

一般社団法人 沖縄専門人材開発研究会

・ 講義映像例

シーサー

まもの けし
・「シーサー」は、魔物が入ってこないように家を守っている。
もんちゆう ぶつ
・門柱には左右にシーサーがあり、それぞれ意味がある。
くち あ
「口を開けているシーサー」 ⇒ 福をまねく
くち ぶ
「口を閉じているシーサー」 ⇒ わざわいを中に入れない
おきなわ がっこう
・沖縄の学校では、シーサーづくりが行われている。

Đầu tiên là Shīsā. Thoạt nhìn trông mặt có vẻ dữ tợn, nhưng đầu đó vẫn ẩn chứa biểu cảm đáng yêu.
おきなわ がっこう
おきなわ がっこう
おきなわ がっこう

○講義・演習 2

- ① 「IT人材のキャリア」 オーバービュー(講義) :
内容・構成の説明、eラーニングの使い方説明
- ② 「IT人材のキャリア」 eラーニング(演習) :
eラーニングの扱い方を確認しつつ、難易度が高いため8コマ分実施
実施項目：「IT人材の役割・仕事」「IT人材の現場」
「ITをめぐる社会の動き」「IT業界の動向」
「IT人材となるまでのキャリアパス」
「IT人材のキャリアパス」「IT人材のキャリアプラン」
「IT人材のキャリアビジョン」

「IT人材のキャリア」 講義資料

学習コンテンツ②

「IT分野の職業キャリア」
ぶんや しょくぎょう
こうぎ えんしゅう
 ー講義・演習 2


「IT人材の役割・仕事」 「IT人材の現場」
じんざい やくわり しごと じんざい げんば

一個人学習
こじん がくしゅう


「ITをめぐる社会の動き」 「IT業界の動向」 「IT人材となるまでのキャリアパス」
しんかい うご ぎょうかい どうこう じんざい

「IT人材のキャリアパス」 「IT人材のキャリアプラン」 「IT人材のキャリアビジョン」
じんざい じんざい じんざい


こうぎ えいぞう
講義映像



かくにん
確認テスト



かいせつ どうが
解説動画

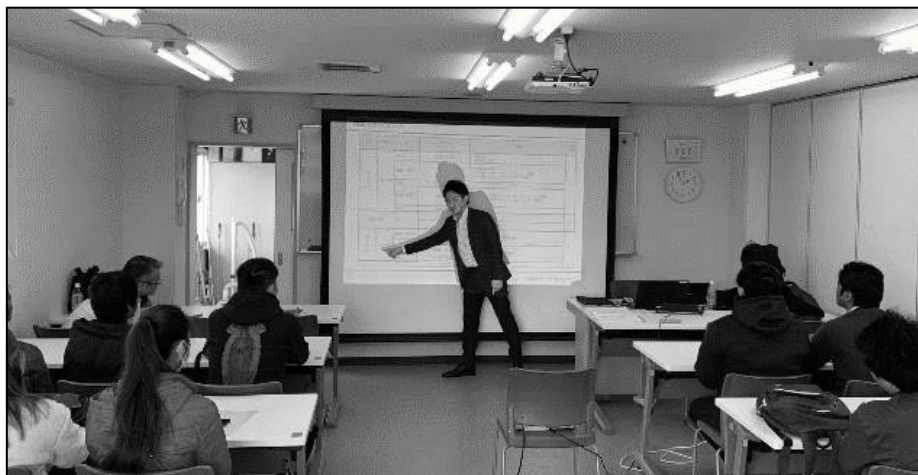


一般社団法人 沖縄専門人材開発研究会

・ 講義映像例



・ 第1回目の実証講座の様子



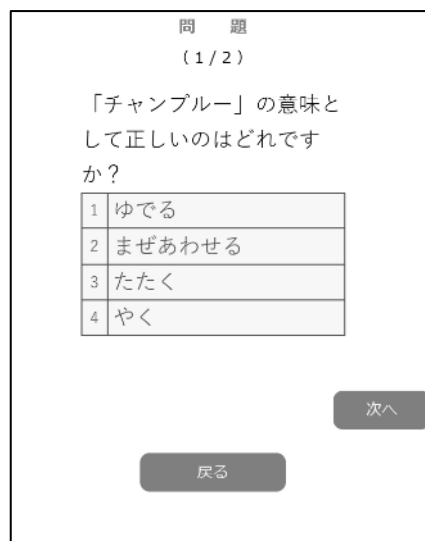
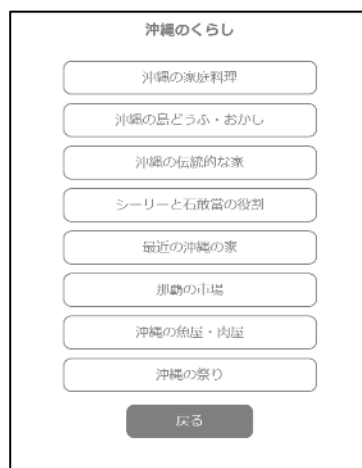
講座全体のスケジュールを説明

《個人学習》

eラーニング化した教材（沖縄の暮らし）を一週間で、6講座実施した。講座1回あたり「講義映像」「CBT」で構成されている。学習者は、数分程度の「講義映像」を視聴した後に確認テストを行い、そのテストの解説動画で確認するという手順で学習する。以下に eラーニング学習サイトの例を紹介する。詳しい紹介は第3節にて行う。

実施項目：「沖縄の伝統的な家」「シーサーと石敢當の役割」「最近の沖縄の家」「那覇の市場」「沖縄の魚屋・肉屋」「沖縄の祭り」

・ eラーニング学習ページ



≪第2回実証講座(2/7)≫

実施	学習形式	項目	時間	内容	合計時間	講師
第 2 回 2/7	集 合 学 習	講義・演習3	13:50 ～ 15:10	・「沖縄の暮らし」まとめ ・修了テストの実施・解答解説	3h	屋 宜
		休憩	15:10 ～ 15:20			
		講義4	15:20 ～ 16:40	・「職業キャリア」講義		
		閉会	16:40 ～ 16:50	・アンケート記入		

○講義・演習3

- ① 「沖縄の暮らし」まとめ : 8コマ分の概略を説明
- ② 修了テストの実施・解答解説 : 修了テストの実施・解答解説

○講義4

「職業キャリア」講義 : 日本で働くこと概念を学習
日本語版・英語版・ベトナム語版を用意。

実施項目：「職業キャリアマインドを知る」

「常識としての職業キャリアマインド」

「基礎的な学習が求められる仕事を知る」

「チームワークが求められる仕事を知る」

・「職業キャリア」講義で扱った教材

《日本語版》

職業人の心構えとして 知っておきたいこと①
～ 職業キャリアマインドを知る ～

☆ **職業キャリアマインド**
職業キャリアを積み重ねる時の基盤になる意識・心構え。

☆ **職業キャリアマインドの4つの領域**
「職業人としての社会的役割と責任」
「組織秩序の維持に寄与する考え方」
「職業観・勤労観」
「主体性・達成志向・目標設定」

《英語版》

Mindset of a Professional 1
～ Learn about Career Mind ～

☆ **Career Mind**
It refers to the basic mindset when you build up your career.

☆ **4 groups in this Career Mind**
"Social roles and responsibilities as a professional"
"Contribution to maintain organizational discipline"
"Attitude and value"
"Independence, ambition, and target."

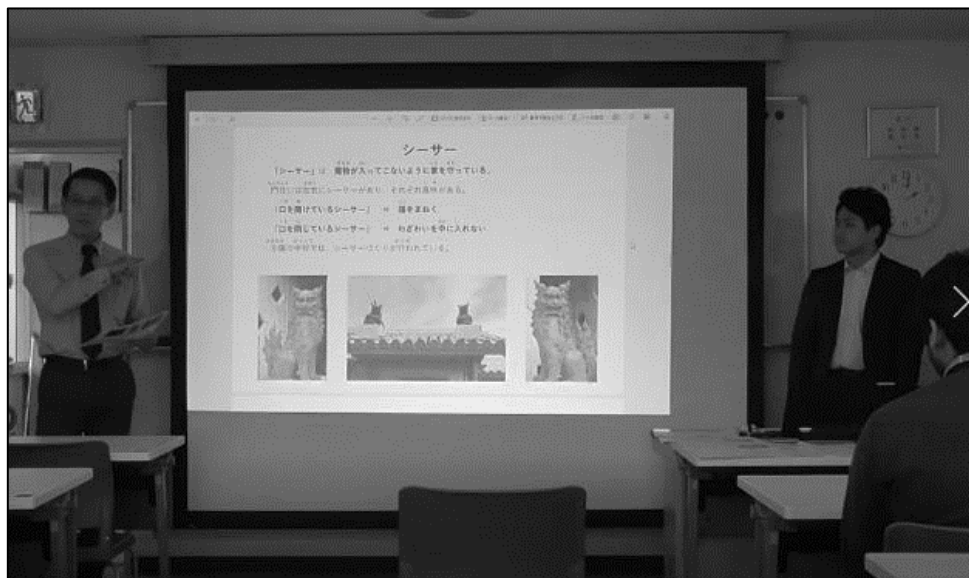
《ベトナム語版》

Những chuẩn bị tâm lý người đi làm nên biết ①
～ Hiểu về tư duy sự nghiệp nghề nghiệp ～

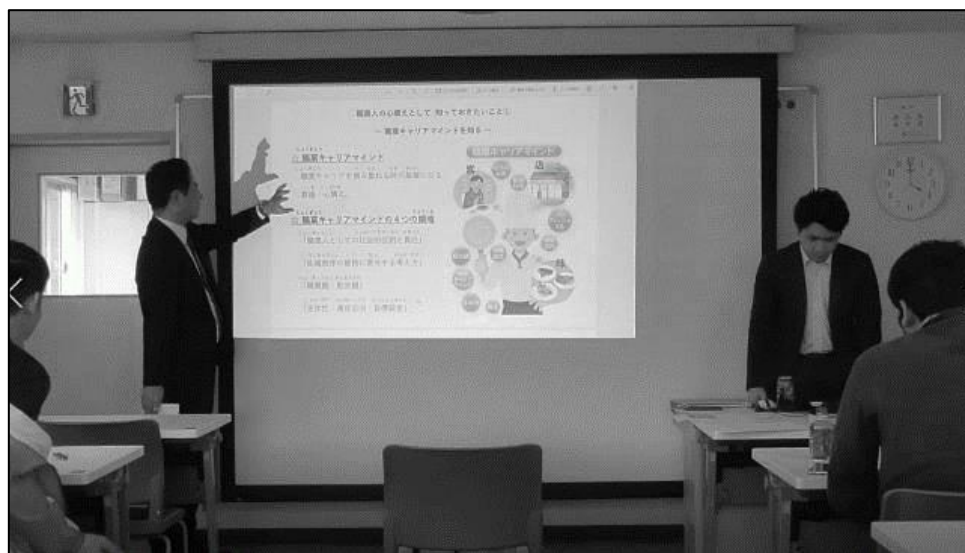
☆ **Tư duy sự nghiệp nghề nghiệp**
Sự chuẩn bị tâm lý làm nền tảng cho việc tích lũy sự nghiệp nghề nghiệp và được gọi là tư duy sự nghiệp nghề nghiệp.

☆ **4 nhóm trong Tư duy sự nghiệp nghề nghiệp**
"Vai trò và trách nhiệm xã hội của người đi làm"
"Tư duy góp phần duy trì trật tự tổ chức"
"Quan điểm nghề nghiệp - Quan điểm lao động"
"Tinh độc lập - Định hướng thành tích - Thiết lập mục tiêu"

・第2回目の実証講座の様子



「沖縄のくらし」講義の様子



「職業キャリア」講義の様子

第2節 eラーニング学習サイト

実証講座にて、留学生に eラーニング学習をしてもらうために eラーニング学習サイトを構築した。

(1)ログイン画面とトップページ

留学生がスマートフォンで学習できるように、スマートフォン画面にも適するサイズでページ構成している。この成果報告書においては、PC画面であるが、内容に差異は生じない。以下がサイトのログイン画面とトップページ画面である。

«ログイン画面»



«トップページ画面»



ログイン画面では、「ユーザーID」と「パスワード」を入力することで、ログインすることができる。実証講座では、学生に一人ひとり異なるユーザーID とパスワードを提供し、eラーニング学習サイトを各自で活用できるようにした。

ログイン後のトップページ画面では、丸で囲まれた「沖縄のくらし」と「IT人材のキャリア」という2つの項目が表示される。それぞれの項目の横に、学習内容のイメージが湧きやすいように、イラストを配置している。「沖縄

のくらし」の横には、伝統的な沖縄の家をイメージしたイラストを設置している。「IT 人材のキャリア」の横には、インターネットを活用して仕事をしているビジネスマンのイメージを配置している。丸で囲まれた項目をタッチすると、それぞれの科目の学習テーマを選択する画面に移行する。

(2)学習テーマの選択

学習テーマの選択画面には、それぞれ 8 テーマのボタンを配置している。

以下にそれぞれの 8 テーマを列挙する。

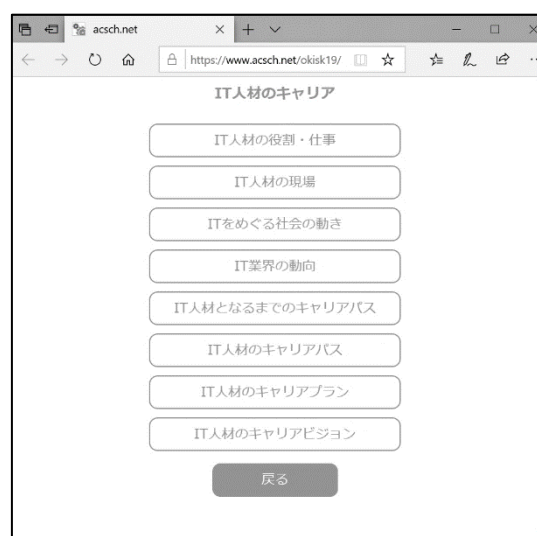
・「沖縄のくらし」:

- 「沖縄の家庭料理」
- 「沖縄の島どうふ・おかし」
- 「沖縄の伝統的な家」
- 「シーサーと石敢當の役割」
- 「最近の沖縄の家」
- 「那覇の市場」
- 「沖縄の魚屋・肉屋」
- 「沖縄の祭り」



・「IT 人材のキャリア」:

- 「IT 人材の役割・仕事」
- 「IT 人材の現場」
- 「IT をめぐる社会の動き」
- 「IT 業界の動向」
- 「IT 人材となるまでのキャリアパス」
- 「IT 人材のキャリアパス」
- 「IT 人材のキャリアプラン」
- 「IT 人材のキャリアビジョン」



(3) 講義映像または CBT の選択

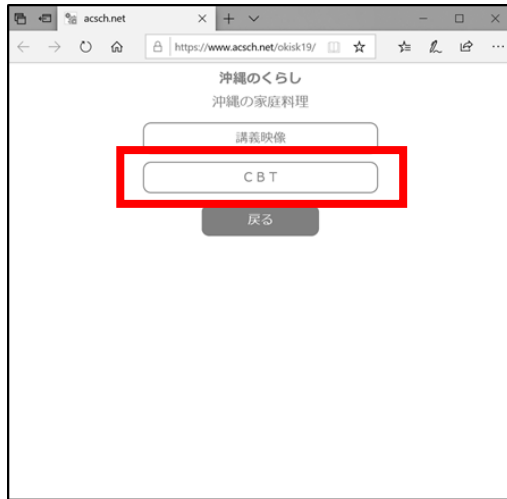
学習テーマのいずれかを選択すると、「講義映像」と「CBT」を選択する画面に移る。学習者は、どちらかを選択することで、「講義映像」の視聴または、「CBT」の実施を開始することができる。「CBT」を選択した場合、問題回答後に解説動画を視聴できるように設定している。

・「講義映像」選択の場合

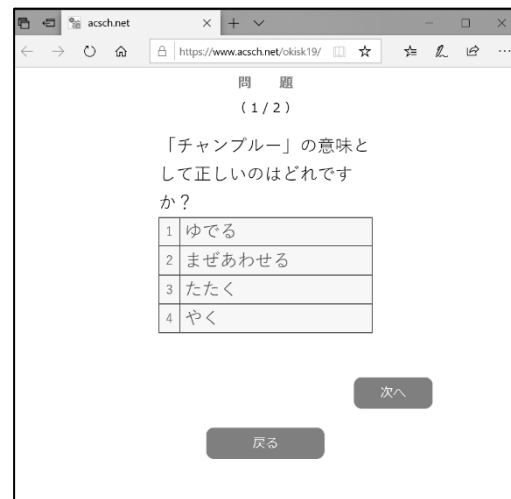


・「CBT」 選択の場合の順序

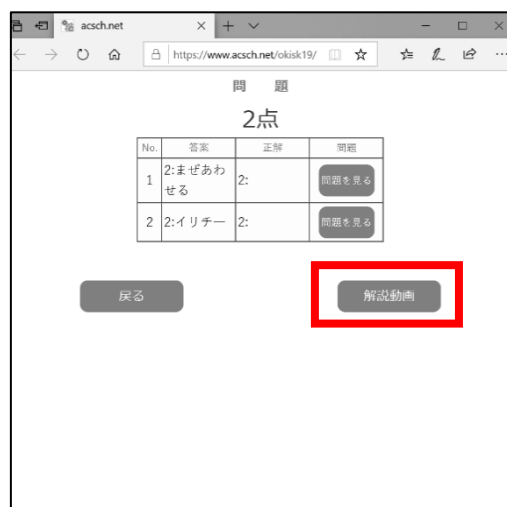
①「CBT」 を選択



②問題に挑戦する



③結果の確認 → 「解説動画」 選択



④解説動画を見る



以上の手順で「沖縄の暮らし」と「IT 人材のキャリア」を学習可能とする e ラーニングサイトの構築を行った。構築した e ラーニングサイトは、実証講座後も継続的に留学生が活用可能である。

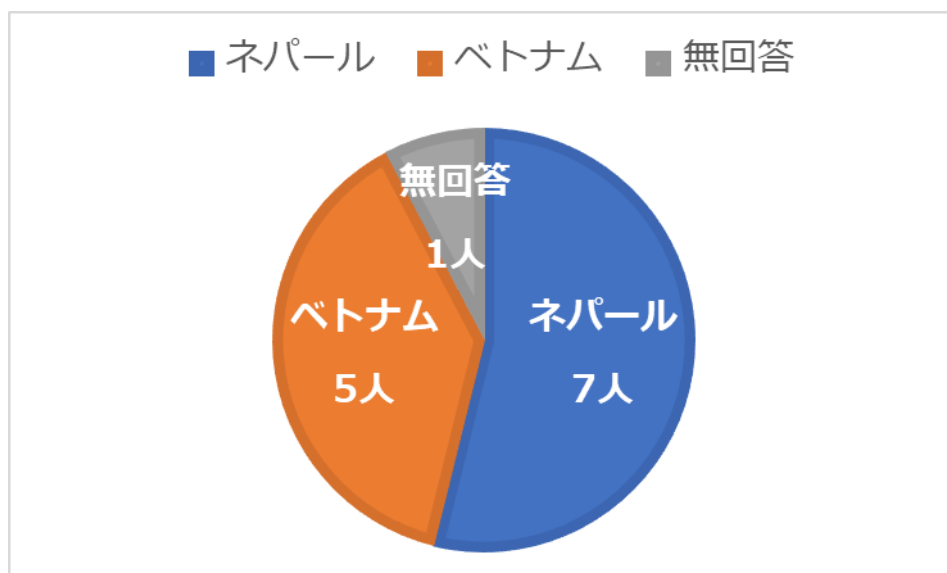
第3節 講座アンケート結果分析

今節では、実証講座の2日目終了直前に実施したアンケート結果について記述していく。アンケートは日本語にて実施した。漢字にはすべてルビをふり、出来る限り難しくない日本語で質問した。質問数は、全部で18項目である。

以下、アンケート結果を紹介していく。

●あなたの出身はどこですか？

ネパール	7
ベトナム	5
無回答	1

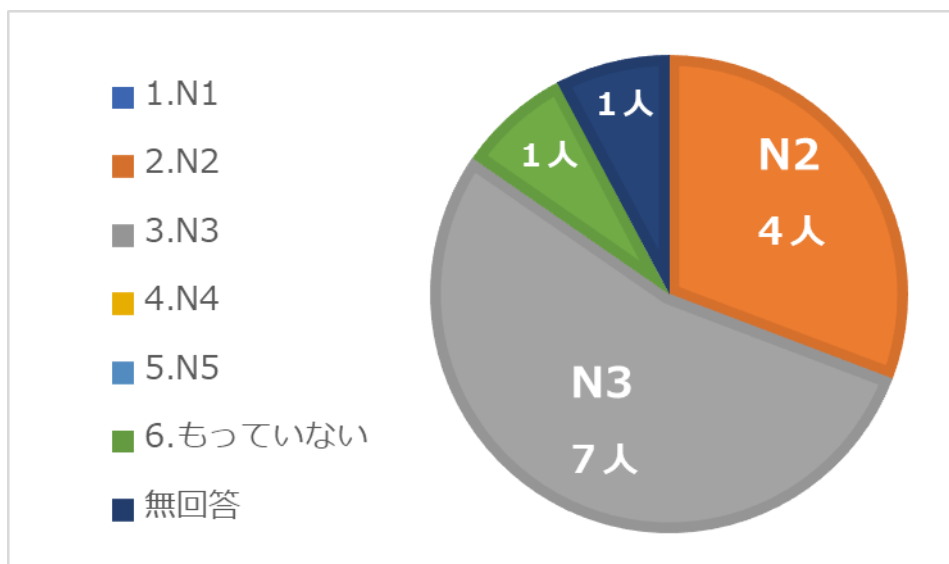


参加した外国人留学生は、「ネパール」と「ベトナム」出身であった。無回答が1名あるが、「ネパール」か「ベトナム」のいずれかであると思われる。

●日本語のレベルについて

(1) あなたが合格した日本語能力試験 (JLPT) はどれですか? ○をつけてください。

1.N1	0
2.N2	4
3.N3	7
4.N4	0
5.N5	0
6.もっていない	1
無回答	1



(2) 【(1)で「6. もっていない」の人だけ】日本語のレベルはどれくらいだと思いますか?

1名 → N3レベル

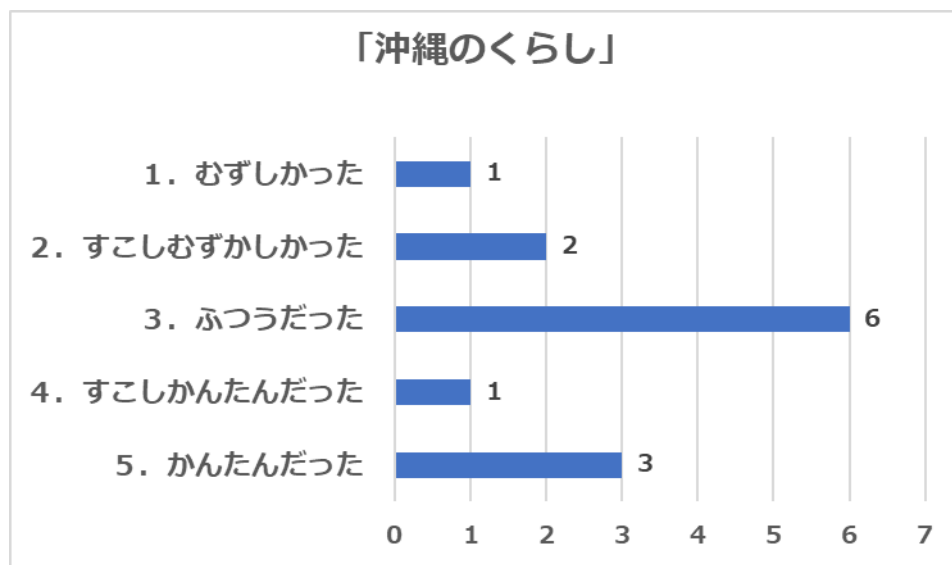
日本語能力試験については、「N3」レベル、「N2」レベルの順番に多く、2段階のレベルがほとんどであった。(1)で【6.もっていない】と回答した方も(2)においてN3レベルと回答し、全体としてN3レベル以上の方が受講者であったことがわかる。

●講座の内容について

(1) 今回の講座はどうでしたか？ 番号を選んでください。理由もお書きください。

「沖縄の暮らし」

1. むずしかった 2. すこしむずかしかった 3. ふつうだった
4. すこしかんたんだった 5. かんたんだった



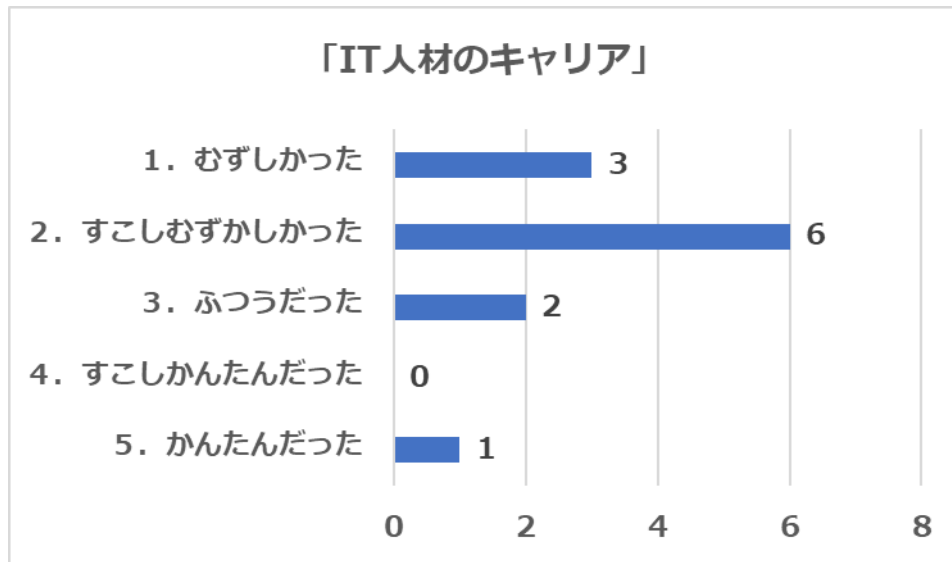
理由：

- ・(回答：2) 仙台にいたから、例に出てくる沖縄のことがあまりわからなかった
- ・(回答：2) 難しい言葉がいっぱいあったからわかりません
- ・(回答：3) だいたい知っていることがありました
- ・(回答：3) 理解できました
- ・(回答：4) 動画みて、知っていることも多かった

「沖縄の暮らし」の難易度について聞いた質問では、約半数の受講者が【3.ふつうだった】と回答している。知っていることがあったから理解できたという意見も見られ、沖縄についての知識の有無が理解度に影響していることがわかる。

「IT人材のキャリア」

1. むずしかった 2. すこしむずかしかった 3. ふつうだった
4. すこしかんたんだった 5. かんたんだった



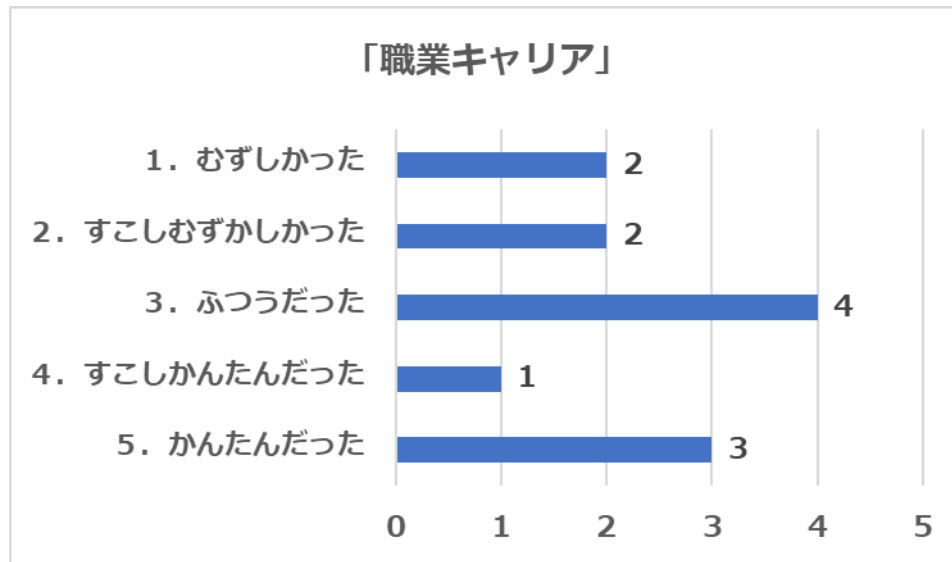
理由：

- ・(回答：2) 慣れていない分野なので難しかった
- ・(回答：2) 新しい言葉が多かったので難しかった（3人）
- ・(回答：2) 専門の言葉があるから

IT人材のキャリアについては、【2.すこしむずかしかった】と回答した人が多い結果となった。理由にも述べられているように、ビジネスで用いられる専門用語の説明が難しかったようである。

「職業キャリア」

1. むずしかった 2. すこしむずかしかった 3. ふつうだった
4. すこしかんたんだった 5. かんたんだった



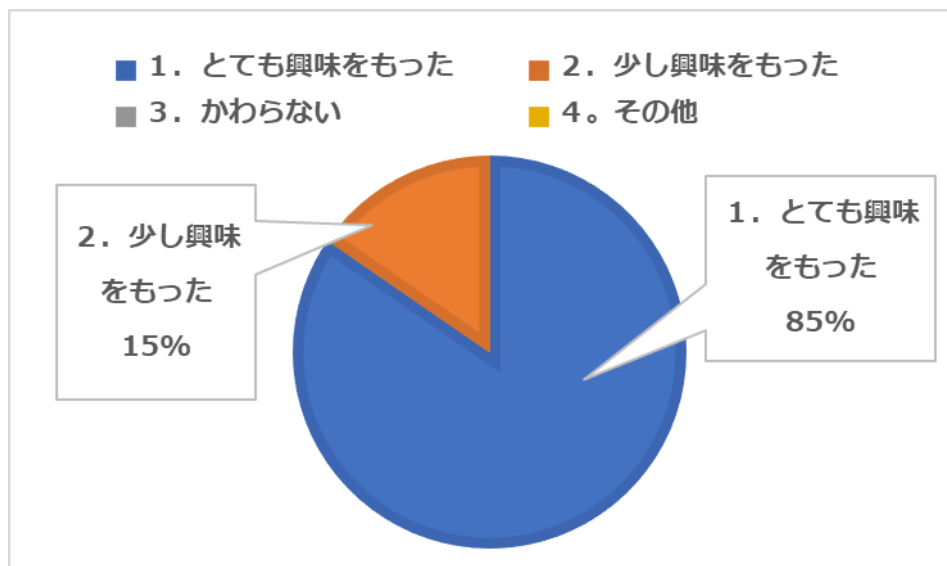
理由：

- ・(回答：2) 慣れていないので難しかった
- ・(回答：3) 新しい言葉が多かったが、ふりがなや翻訳があったのでふつうだった（2人）
- ・(回答：5) ゆっくりとした説明で、内容も英語に翻訳されていたから
- ・(回答：5) 勉強したことがあったのでかんたんだと思います

日本で働くことについて学習する「職業キャリア」では、「IT 人材のキャリア」と比較すると理解しやすかったという結果となった。講座において、日本語のスライドを投影しながら、ネパールの受講者には英語版、ベトナムの方にはベトナム語版を配布した。日本語に加えて、自分が慣れ親しんだ言語で確認しながら学習可能な形式をとったことが効果的であったことがわかる。

(2) 「沖縄の暮らし」を学んで、今までより沖縄に興味をもちましたか？

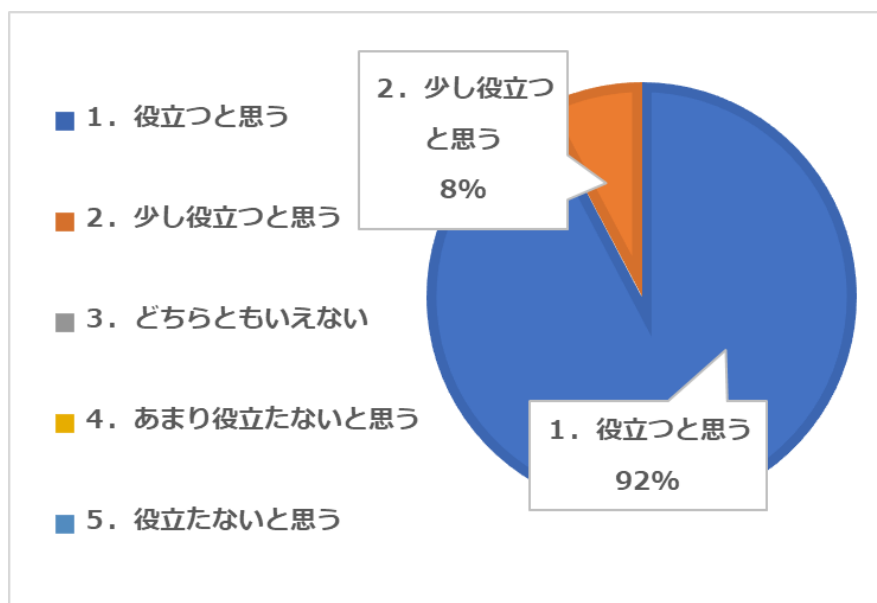
1. とても興味をもった 2. 少し興味をもった 3. かわらない
4. その他



「沖縄の暮らし」を学習して、受講者全員が以前よりも沖縄に興味をもったという結果となった。できるだけ生活に則した内容で、イメージが湧きやすいように写真を配置していたことが要因であると思われる。

(3) 今回の講座で学んだ「沖縄の暮らし」はこれからの生活で役に立つと思いますか？

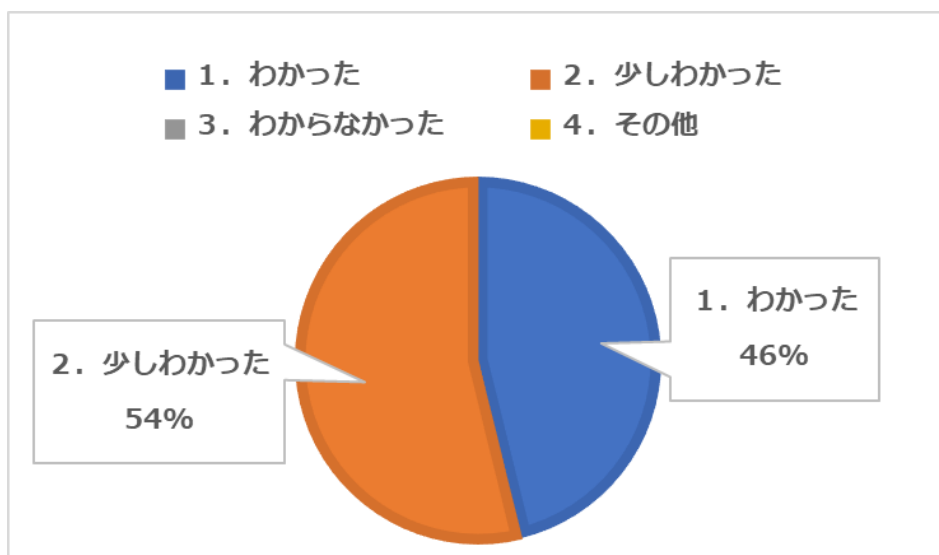
1. 役立つと思う
2. 少し役立つと思う
3. どちらともいえない
4. あまり役立たないと思う
5. 役立たないと思う



(2)の結果と同様に、受講者の全員からプラス評価という結果になった。沖縄について学習する機会があまりない中で、沖縄で生まれ育った講師が沖縄の生活や文化、その背景となる歴史について講義することが留学生には有意義であったことでこのような結果になったようである。

(4) 「IT人材のキャリア」を学んで、IT人材についてわかりましたか？

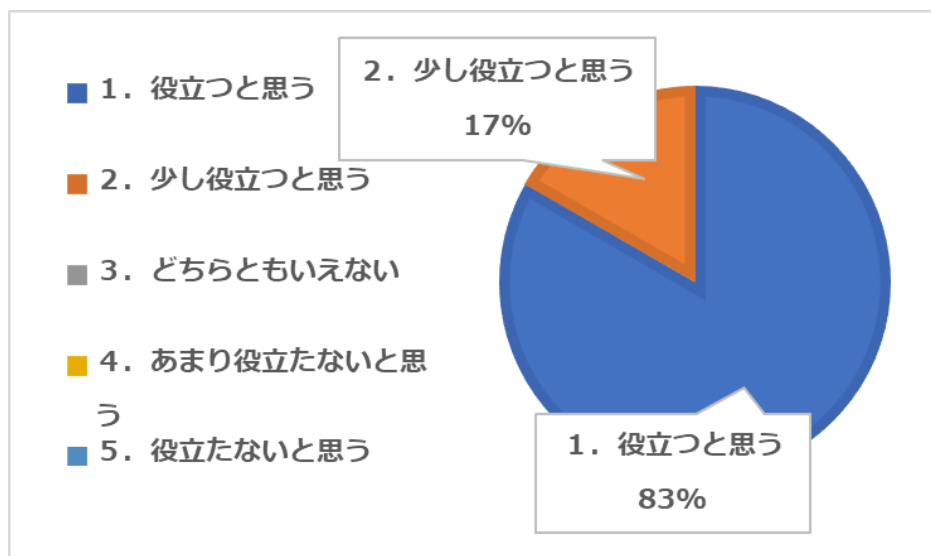
1. わかった 2. 少しわかった 3. わからなかった 4. その他



(1)の質問では難しいという回答が多かったが、理解度については【3.わからなかった】が0人という結果であり、全く理解できなかった受講者はいなかった。それでも、半数以上が【2.少しわかった】という回答であったことから、「沖縄のくらし」と比較すると難易度が少し高かったようである。

(5) 今回の講座で学んだ「IT 人材のキャリア」の講座は役に立つと思いますか？

1. 役立つと思う 2. 少し役立つと思う 3. どちらともいえない
4. あまり役立たないと思う 5. 役立たないと思う

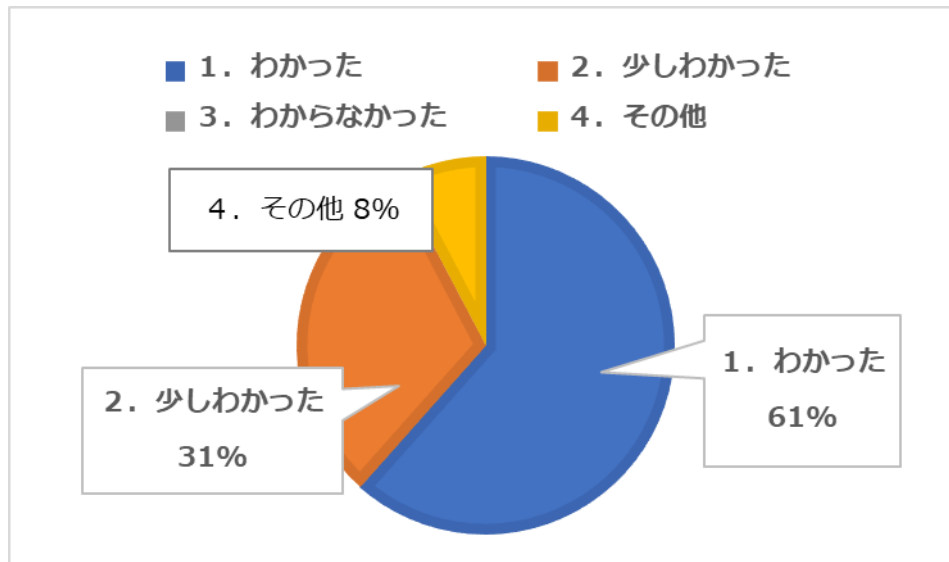


この質問の結果は、「沖縄の暮らし」と同じような結果となった。

「IT 人材のキャリア」の講座自体は難しく、内容を理解するのは少し大変であったようだが、就職へ向かう自身の立場において、意味のある内容であり、今後役立つと判断できる内容であったようである。

(6)「職業キャリア」を学んで、日本での働き方についてわかりましたか？

1. わかった 2. 少しわかった 3. わからなかった 4. その他

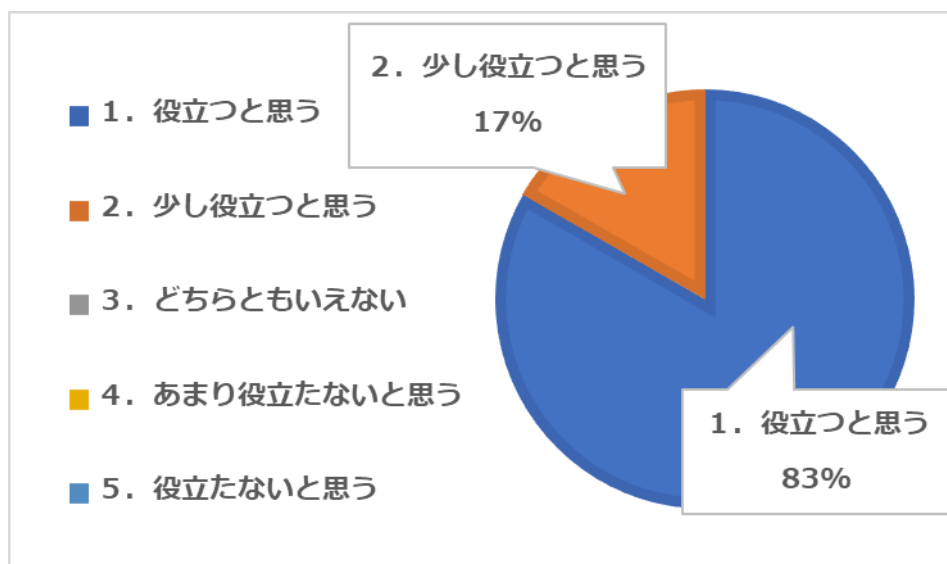


【4.その他】：教えてもらったことはわかった

「職業キャリア」については、「IT人材のキャリア」と比較すると【1.わかった】と回答した人が多かったが、「沖縄の暮らし」ほどの高い結果にはならなかった。また、【4.その他】と回答した受講者は、「教えてもらったことはわかった」と記述している。講座で学習した内容は理解できたが、日本での働き方全体としてはまだ不明な点があることが推測される。

(7) 今回の講座で学んだ「職業キャリア」の講座は役に立つと思いますか？

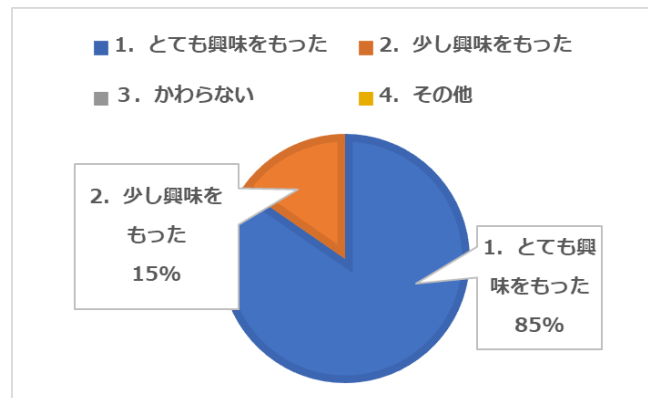
1. 役立つと思う 2. 少し役立つと思う 3. どちらともいえない
4. あまり役立たないと思う 5. 役立たないと思う



「職業キャリア」の講座が今後役立つかどうかについて聞いた質問では、「IT人材のキャリア」と同じ結果であった。就職へ向かう自身の立場において、意味のある内容であり、今後役立つと判断できる内容であったようである。

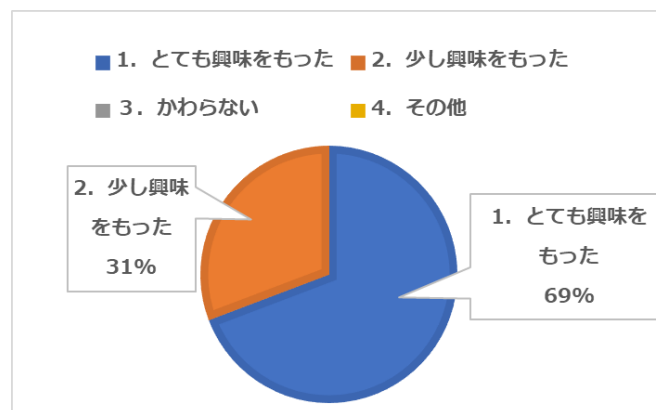
(8) 今回の特別講座「沖縄の暮らし」と「IT 人材のキャリア」・「職業キャリア」を学んで、今までより沖縄での就職に興味を持ちましたか？

1. とても興味をもった
2. 少し興味をもった
3. かわらない
4. その他



(9) 今回の特別講座「沖縄の暮らし」と「IT 人材のキャリア」・「職業キャリア」を学んで、今までより日本での就職に興味を持ちましたか？

1. とても興味をもった
2. 少し興味をもった
3. かわらない
4. その他

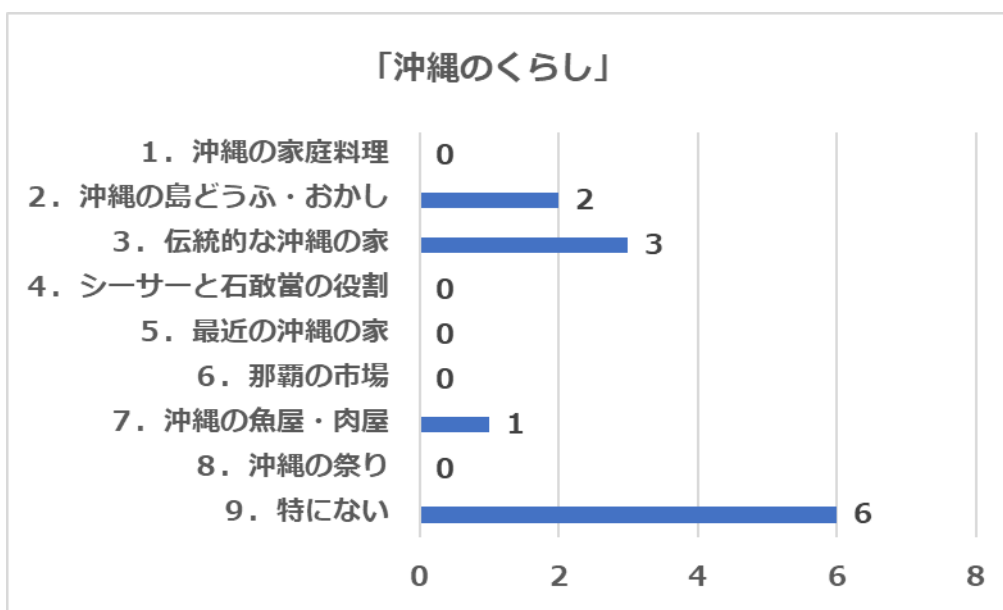


3つの講座を受講して、沖縄・日本での就職に興味を湧いたかどうかに関しては、双方ともプラス評価のみである。また、2つを比較すると沖縄での就職に興味を持った人が多いことが分かった。「沖縄の暮らし」で沖縄について親近感を感じた受講者が多いことが読み取れる。

(10) むずかしかったテーマはどれですか？番号を選び、その理由をお書きください。

「沖縄の暮らし」

1. 沖縄の家庭料理
2. 沖縄の島豆腐・おかし
3. 伝統的な沖縄の家
4. シーサーと石敢當の役割
5. 最近の沖縄の家
6. 那覇の市場
7. 沖縄の魚屋・肉屋
8. 沖縄の祭り
9. 特にない



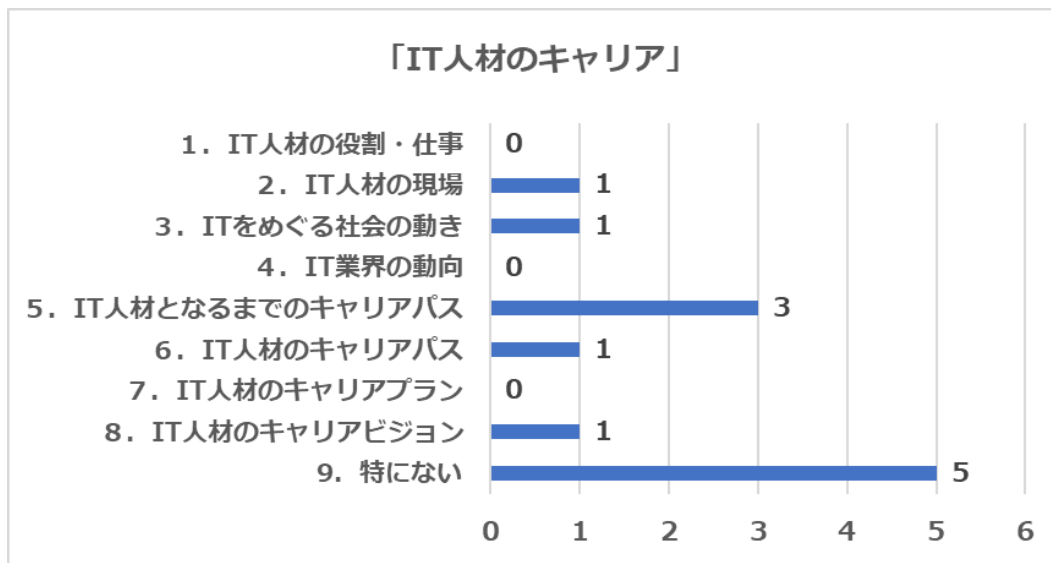
理由：

- ・(回答：9) 動画がゆっくり説明されていたので。

難しかった項目については、約半分の受講者が【9.特にない】を選択した。理由についても、eラーニングの講義映像が理解しやすかったことが要因として挙げられている。

「IT人材のキャリア」

1. IT人材の役割・仕事
2. IT人材の現場
3. ITをめぐる社会の動き
4. IT業界の動向
5. IT人材となるまでのキャリアパス
6. IT人材のキャリアパス
7. IT人材のキャリアプラン
8. IT人材のキャリアビジョン
9. 特にない



理由：

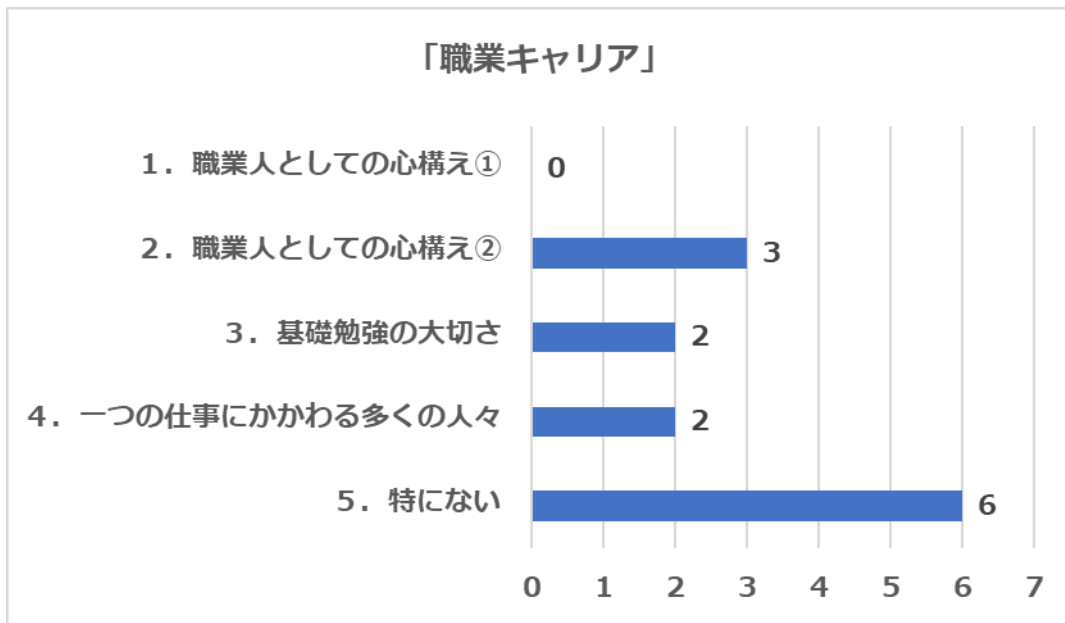
- ・(回答：5) 一番大事であるとおもった
- ・(回答：9) 説明がよかった。翻訳もあったから

「IT人材のキャリア」では、一番多い回答は【9.特にない】であったが、半数以上の受講者がいずれかの項目に難しさを感じたようである。

【5.IT人材となるまでのキャリアパス】と回答した受講者の一人は、難しさは感じながらも重要性は理解できたようである。

「職業キャリア」

1. 職業人としての心構え①
2. 職業人としての心構え②
3. 基礎勉強の大切さ
4. 一つの仕事にかかわる多くの人々
5. 特にない



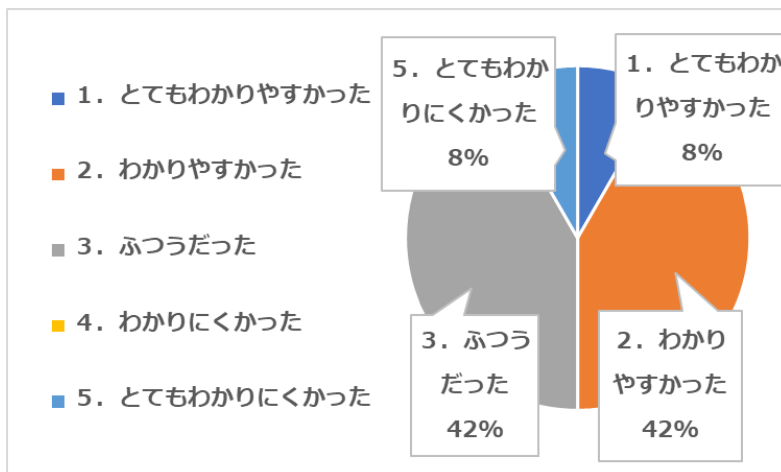
理由：

- ・(回答：5) 大丈夫だと思います。

「職業キャリア」についても、約半数の受講者が【6.特にない】という結果であった。しかし、【1.職業人としての心構え①】以外のテーマについて、複数の回答がある。母国との仕事についての概念の違いから、理解が難しかったと推測される。

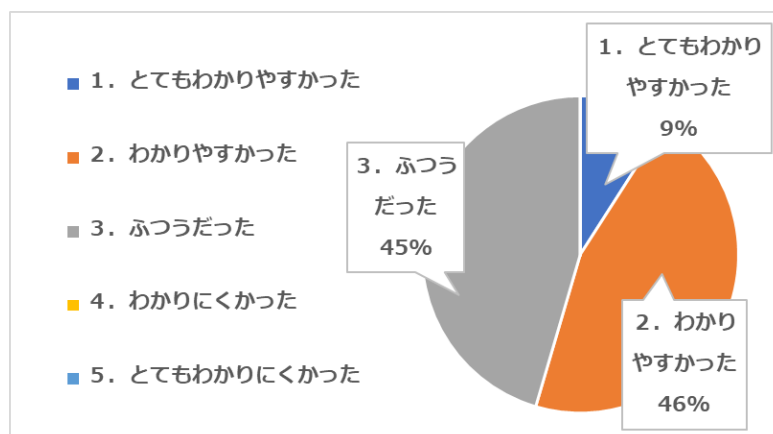
■ 講座の方法について

(1) 教材はわかりやすかったですか？



教材について尋ねた質問では、半数の受講者から「わかりやすい」という評価を頂けた。それでも、1割弱の受講者が【5.とてもわかりにくかった】と回答していることから、その原因を探り、必要ならば教材の改善に関する検討の余地もあると考えられる。

(2) 講師の説明はわかりやすかったですか？



講師の説明に関しては、半数以上の受講者が「わかりやすい」と評価をしており、マイナス評価は一件も出なかった。説明の際に、専門用語や方言を留学生にも理解できるように、一般的な日本語や英語での言いなおす等の工夫が効果的であったと考えられる。

第4節 まとめ

本章では、今年度の2020年1月31日～2月7日に実施した実証講座について説明してきた。

第1章では、実証講座の概要と実証講座スケジュール、学習内容について紹介した。今年度の実証講座は沖縄県の専門学校ITカレッジ沖縄に在籍する留学生を対象に実施した。参加人数は、13名であった。実施方法は、2回の集合学習と個人学習1回である。

スケジュールについては、まず第1回目の集合学習を2020年1月31日に実施した。次に、eラーニング学習として1週間の個人学習期間を設けた後に、第2回目の集合学習を2月7日に行った。

学習内容は、「日本文化・社会教育教材」として開発した「沖縄の暮らし」と、「キャリア教育教材」として開発した「IT人材のキャリア」および、日本での働き方について学習可能とする「職業キャリア」である。「沖縄の暮らし」と「IT人材のキャリア」については、それぞれ8テーマを選定しeラーニング教材として実施した。「職業キャリア」については、担当の講師がコンテンツ化した教材を活用しながら説明を行った。

第2章では、eラーニング教材の紹介として、実証講座で活用したeラーニングサイトについてサイトの画面とともに内容を説明した。構築したeラーニングの仕様は、「沖縄の暮らし」と「IT人材のキャリア」の2項目から構成され、それぞれの項目に8テーマ設置している。1つのテーマ毎に、「講義映像」と「CBT」を用意した。また、「CBT」については、講義映像の内容に関する「小テスト」の実施と、その小テスト回答後に「解説動画」の視聴が可能である。

第3章では、実証講座のアンケートについて、それぞれの質問における結果と分析を行っている。

「沖縄の暮らし」については、予備知識があった学生には、簡単な内容であったようである。しかし、沖縄に生活や文化についてまだ馴染めていない学生には、

少々難しい内容であった。

「IT人材のキャリア」については、ビジネス用語やITに関する専門用語の理解に苦しんだようである。今後の教材開発において、検討の余地があることが分かった。

「職業キャリア」においては、日本語での教材のほかに、英語版とベトナム語版を用意し、留学生に配布して講義を行った。日本語のほかに、留学生自身が慣れ親しんだ言語の教材を参考とすることで、理解度は上がったようである。

今回の実証講座を受講して、沖縄・日本での就職に興味を抱いたかどうかを尋ねる質問では、沖縄での就職に興味を持った人数が多かった。「沖縄の暮らし」を受講したことで、以前より沖縄に親近感を抱いた結果である。

今年度の実証講座で得た知見を活かして、来年度も実施委員会などにおける本事業の構成委員の協力を得ながら、来年度の実証講座に向けてさらに取り組むことが必要である。

第4章 教育プログラム開発

第1節 概要

本章では、今年度実施した教育プログラム開発について説明していく。教育プログラム開発として実施した項目は、大きく分けて3つである。

まず、教材の本格開発である。今年度に実施した教材開発は、「日本文化・社会教育教材」「キャリア教育教材」「日型コンピテンシー教育教材」の3科目について1テーマずつである。

「日本文化・社会教育教材」では、昨年度開発した沖縄の生活や文化に関する学習教材「沖縄の暮らし」と同様の形式で、日本全体版である「日本の基礎知識」を作成した。

「キャリア教育教材」では、今年度に教材プロトタイプ追加開発にて実施した「IT人材のキャリア」の完成イメージに倣い、自動車整備士に関するキャリア教育教材を開発した。

「日本型コンピテンシー教育教材」では、沖縄県が掲げている地域課題を留学生が学習する教材として、沖縄県の代表的な飲み物である泡盛に焦点をあてた教材を作成した。

次に、本事業で開発する教育プログラムのシラバス開発である。このシラバスの内容は、昨年度から今年度にかけて開発を行った教材プロトタイプと今年度実施した教材本格開発についてである。教材プロトタイプと教材本格開発は、それぞれ「日本文化・社会教育教材」「キャリア教育教材」「日本型コンピテンシー教育教材」の3科目あり、各科目は2つのテーマで構成されている。つまり、今年度までに開発してきた合計6テーマについてシラバスの開発を実施した。

最後に、eラーニング教材プロトタイプ開発である。このeラーニング教材プロトタイプ開発にて実施した「日本文化・社会教育教材」と「キャリア教育教材」については、今年度実施した実証講座にて活用した。上記の2科目をそれぞれ8講座分行った。

第2節 教材本格開発

第1項 日本文化・社会教育教材

「日本文化・社会教育教材」では、昨年度開発した沖縄の生活や文化に関する学習教材「沖縄の暮らし」と同様の形式で、日本全体版である「日本の基礎知識」を作成した。「日本の基礎知識」は、以下の4つの大項目から構成される。

「日本の自然と信仰」：日本の地理や季節、日本人の精神

「日本の文化と技術」：伝統文化や現代文化、年中行事、科学、技術

「日本の社会と生活」：政治や経済、交通、社会生活、教育

「留学生と日本の制度・慣習」：就労、契約、在留資格、迷惑と犯罪

日本の文化や社会を学習する項目として、「日本の自然と信仰」「日本の文化と技術」「日本の社会と生活」の3つを用意した。

また、本事業で開発する教育プログラムは、留学生の定着支援に寄与することを目的としている。そこで、留学生が日本で生活していく上で必要となる知識について学習可能である「留学生と日本の制度・慣習」という項目を作成した。

昨年度開発した沖縄の生活や文化に焦点を当てた教材である「沖縄の暮らし」と同様に、PowerPoint形式で開発を行った。PowerPointのスライドには、留学生が内容を理解しやすいように、要点やキーワードを列挙し、漢字にはルビも振っている。講座を受講する留学生が講義内の講師の言葉を聞いただけでは理解しにくい食べ物や事柄については、イメージとしてイラストや写真を配置した。教材の見本は以下の通りである。

「沖縄の暮らし」見本

おきなわ ぼん
沖縄のシチグッチ（お盆）

②エイサー

きゅうげき びつ にち がくち おこな おきなわ だんとうぶよう
・旧暦7月15日に各地で行われる沖縄の伝統舞踊。

ちいき ちい せいかん じかん ながい おど かわ こと
→地域によって、踊る期間の時間の長さや踊り方など異なる。

ようき せんぞさま おく
・陽気にさわいで、ご先祖様をお送りする。

わかちの づつ まえ 「ふんまう」
・若者たちは1か月前から練習をしている。



22

「日本の基礎知識」見本

日本の文化と技術
～ 伝統文化 ～
－ お祭り －

- ・ **お祭り**は、人々が神様や祖先に感謝の気持ちを表す儀式
- ・ 日本では、**すべての物事に神様がいます**と考えられているため、自分の生活は神様や祖先に守ってもらっているおかげという考え方があります。
- ・ お祭りで歌ったり踊ったりするのは、神様や祖先に喜んでもらうためです。
- ・ 各地域にたくさんのお祭りがあり、お祭りの目的も色々です。



阿波踊り



祇園祭

「日本の基礎知識」のカリキュラム構成については、1つの大項目につき、3～5の中項目を設けている。中項目の中身も1つあたり3～5つの小項目を作っている。合計54の小項目を作成し、教材化を実施した。カリキュラムは、次の通りである。

大項目	中項目	小項目
日本の自然と 信仰	地理	面積、人口、自然環境
	季節	春、夏、秋、冬
	信仰・精神	天皇、信仰、思想、美意識
日本の文化と 技術	伝統文化	伝統芸能、芸事、武道、お祭り、和食
	現代文化	まんが、アニメ、ゲーム、スポーツ、ファッション
	年中行事	正月、年度、衣替え、お盆、大晦日・節句
	科学	ノーベル賞（物理、化学、医学）
	技術	工業製品（自動車、家電、ロボット）
日本の社会と 生活	政治	民主主義、三権分立、政党
	経済・産業	経済発展、産業構造
	交通	鉄道、港湾、空港、高速道路
	社会生活	都市と地方、少子高齢化、住宅事情
	教育	学校制度（幼稚園～大学）、進学と就職

留学生と日本の制度・慣習	就労	アルバイト、資格外活動許可、就労時間
	契約	住宅の管理費、敷金・礼金、仲介手数料、禁止事項
	在留資格	在留資格の種類、不法就労
	迷惑と犯罪	迷惑行為、違反行為、犯罪行為

第2項 キャリア教育教材

「キャリア教育教材」では、自動車整備士分野に関する教材を開発した。本教材の目的は、留学生が日本で自動車整備士を目指す際に必要となる知識を学習し、自動車整備士としてのキャリアについて理解することである。本教材の構成内容は、

「自動車整備士分野 職業理解」 : 自動車整備士とは何か

「自動車整備士分野 職業意識」 : 自動車整備士の職業意識

「自動車整備士分野 職業人コンピテンシー」: 自動車整備士に必要な能力

「自動車整備士分野 職業キャリア形成」: 自動車整備士のキャリアパス形成

以上の4つの大項目から構成されている。以下にカリキュラム表を提示する。

大項目	中項目	小項目
自動車整備士分野職業理解	自動車整備士とは何か① 自動車整備士の役割・意義と職種を知る	01.自動車整備士の役割・仕事
		02.自動車整備士の職場
		03.自動車整備士をめぐる社会の動き
	自動車整備士とは何か② 社会の動きと自動車整備士業界の動向を知る	04.自動車整備士業界の動向
自動車整備士分野職業意識	自動車整備士の職業意識① 組織・社会の一員としての自動車整備士の心構えを知る	05.社会的責任を担う自動車整備士の心構え①
		06.社会的責任を担う自動車整備士の心構え②
	自動車整備士の職業意識② 個人としての自動車整備士人材の心構えを知る	07.専門職としての自動車整備士の心構え
自動車整備士分野	自動車整備士に必要な能力① チームワークで働く自動車整備	08.自動車整備士のコミュニケーション能力

職業人コンピテンシー	備士が習得すべき能力を考える	09.自動車整備士におけるチームワーク
	自動車整備士に必要な能力② 専門職業人として日々の研鑽が必要な自動車整備士が習得すべき能力を考える	10.専門職としての自動車整備士の視点
自動車整備士分野	自動車整備士のキャリアパス形成① 様々な自動車整備士のキャリアパスを考える	11.自動車整備士のキャリアパス 12.自動車整備士のやりがいや達成感・使命感
	職業キャリア形成	13.自動車整備士人材のキャリアプラン 14.自動車整備士人材のキャリアビジョン

本教材の開発の手順は、14の小項目について原稿を作成した後に、それぞれのテーマに沿うイラストの考案を行った。イラストは、学習者が講座内容のイメージ化を可能にする目的で、車体や工具の追加に加え、整備時の作業着を登場人物着せるなどの工夫をした。

第3節 日本型コンピテンシー教育教材

「日本型コンピテンシー教育教材」においては、留学生がより沖縄に関心を持ち、自ら沖縄県が抱える問題・課題に挑戦していくきっかけとなる教材の開発を目的とした。そうした背景から注目したのが、沖縄県が誇るお酒の「泡盛」である。沖縄県では、日本国内・国外問わず、泡盛の出荷数が年々減少している。沖縄県としても、こうした状況に課題意識を抱いている。それを反映して、泡盛の振興策の考案や、公募を実施している。

こうした状況も踏まえて、今年度の「日本型コンピテンシー教育」のPBL教材開発は、泡盛の振興・普及をテーマとした。

PBLの実施内容は、泡盛の魅力を紹介する既存のWebサイトをリニューアルすることを想定した企画提案書の作成である。

学習テーマは、ニーズ・課題の分析から開始し、企画提案書の作成までを目標とする。学習設定については、Webサイトの運営側から学習者が在籍する企業が相談を受け、学習者がその業務を担当することになった想定である。本PBLの学習時間は、1時間半のスクーリングを全部で9回実施する想定として、講座全体で13.5時間である。

また、PBL教材を開発するにあたり、講義を担当する講師用が活用する「指導ガイド」も合わせて作成した。PBLの概要は以下の通りである。

PBL 概要	
学習目標	クライアントの要求や、現在の WEB サイトの課題の分析等に基づいて、WEB サイトリニューアルの企画を検討し、「企画提案書」を作成する。
学習テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・クライアントのニーズ分析・課題分析 ・WEB サイトの現状分析 ・開発要件定義 ・リニューアルコンセプト策定 ・企画立案／企画提案書の作成
学習設定	<p>WEB 制作企業株式会社那覇オフィスサービス (NOS)が、沖縄酒造組合 (当該 WEB サイトの運営者) より相談を受け、サイトのリニューアルに取り組むことになった。</p> <p>学習者は株式会社 ODL の社員として、上位者の指示を受けながら当該業務を実施する。</p>
学習時間	全 13.5 時間 (1.5 時間×9 回)

・学習時間の内訳と成果物

学習内容	時間配分	成果物
ヒアリング	3.0 時間	ヒアリングシート
要求分析	3.0 時間	開発要求分析シート
提案書作成	6.0 時間	企画提案書
相互評価	1.5 時間	
講師による評価	1.5 時間	
合計	15 時間	

・学習教材

① 演習課題

◆状況説明

- あなたは那覇市にあるIT企業、株式会社那覇オフィスサービス(NOS)でWEB制作を担当している。
- 先日、NOS社の山本社長が知り合いの沖縄県酒造組合で働く職員の下地さんから酒造組合のサイトの相談を受けた。
- 話のよると、アクセス数の割に、問い合わせなどが少なく、確認したところ、サイトの滞在時間が著しく少なく、下層ページが見られていないことがわかった。
- この相談を受けてNOS社では、サイトの改善案の提案を行うことになった。
- あなた方はこのプロジェクトにWEB制作チームとして参加する。
- プロジェクトの開始にあたって、あなたは、まず上司から、提案書の作成にあたって、沖縄県酒造組合の担当者に対し、サイトリニューアルの方向性に関するヒアリングを実施するように指示を受けた。

10

・指導ガイド

指導ガイド

ヒアリングの結果と、学習者の持っているWebに関する知識をあわせ、クライアントの要求を満たすにはどのような内容にすればよいかという分析をすることが、要求分析の目的である。

分析した要求をまとめ、どのような提案をすればよいか、と考えさせ、提案書にまとめるようにする。
分析結果がクライアントの要求を満たすことを説明できるようにすることが目的となる。

提案のプレゼンテーションには、クライアントにとってどのような良い結果をもたらすことができるか？といった点を中心に説明ができるように指導する。

8

第3節 シラバス開発

今年度シラバスを作成するにあたり、専門学校や企業団体の本事業構成委員との協議において、学習時間の再設計を行った。

昨年度までの学習時間は、4年制で合計180時間として想定していた。本事業の構成委員との協議や実現可能性を踏まえ、2年制で合計90時間とした。以下に再設計した科目構成と学習時間をまとめた。

科目	内容	時間
日本文化・社会	沖縄県の地域産業構造・地域文化、日本社会・経済などの日本的な価値観を形成する背景知識を教育するとともに、日本・沖縄への帰属意識の向上を目指す。教材は新規開発および既存教材等のアレンジを想定。	30h
日本型コンピテンシー	“おもてなし”に代表される、細やかさ・配慮・丁寧さなど日本的な働き方の行動様式を、PBL（Project Based Learning）によるロールプレイング形式の学習を通して習得を目指す。教材は新規開発を想定。	30h
日本キャリア	日本でのキャリア形成の在り方や、業界研究・就職活動の方法を教育するとともに、短期インターンシップを実施し、日本での働き方を検討するための知識・体験の獲得を目指す。教材は新規開発及び既存教材等のアレンジを想定。	30h
	合計時間	90h

シラバスは、再設計した学習時間を反映し、開発を行った。開発したシラバスの例を次ページにて紹介する。

第4節 eラーニング教材プロトタイプ開発

本節では、今年度を実施した eラーニング教材プロトタイプ開発について記述していく。今年度プロトタイプ開発として実施した科目は、「日本文化・社会教育教材」と「キャリア教育教材」である。実施した内容は、「講義映像」「小テスト」「解説動画」の作成である。それぞれの具体的な実施内容を記す。

第1項 日本社会・社会教育教材

「日本文化・社会教育教材」における eラーニング教材プロトタイプ開発で実施した内容は、昨年度開発した「沖縄の暮らし」を活用して、以下の項目である。

①アバターを活用して講義映像化

②CBT 機能の構築

- (a) 確認テスト
- (b) 解説動画

①アバターを活用して講義映像化

まず、講義映像の作成について説明する。今年度実施した「日本文化・社会教育教材」の「沖縄の暮らし」における eラーニング教材化した項目は、以下の8項目である。

- ・ 沖縄の家庭料理
- ・ 沖縄島どうふ・おかし
- ・ 沖縄の伝統的な家
- ・ シーサーと石敢當の役割
- ・ 最近の沖縄の家
- ・ 那覇の市場

- ・ 沖縄の魚屋・肉屋
- ・ 沖縄の祭り

講義映像化については、昨年度開発した教材を、第2章で説明した追加開発を行った後に実施した。

講義映像の作成手順として、第1に、PowerPoint 教材にナレーションをつける作業を行った。作業方法は、PowerPoint 機能の「記録」を活用した。講師が PowerPoint 教材の「ノート」に記述した原稿を読みながら、説明を行う。その様子を PC で「記録」することで、PowerPoint 教材に講師が映っている講義映像を作成した。

第2に、作成した講義映像に映る講師をアバター化することで、コンテンツ教材化を行った。留学生が映像を視聴する際に、可能な限り声の高さや見た目に対して違和感を抱かず、積極的な学習を可能とする設定をした。

また、教材プロトタイプ追加開発で行ったベトナム語翻訳を実証講座では、講義資料の下部に字幕として追加した。作成した講義映像が下の写真である。

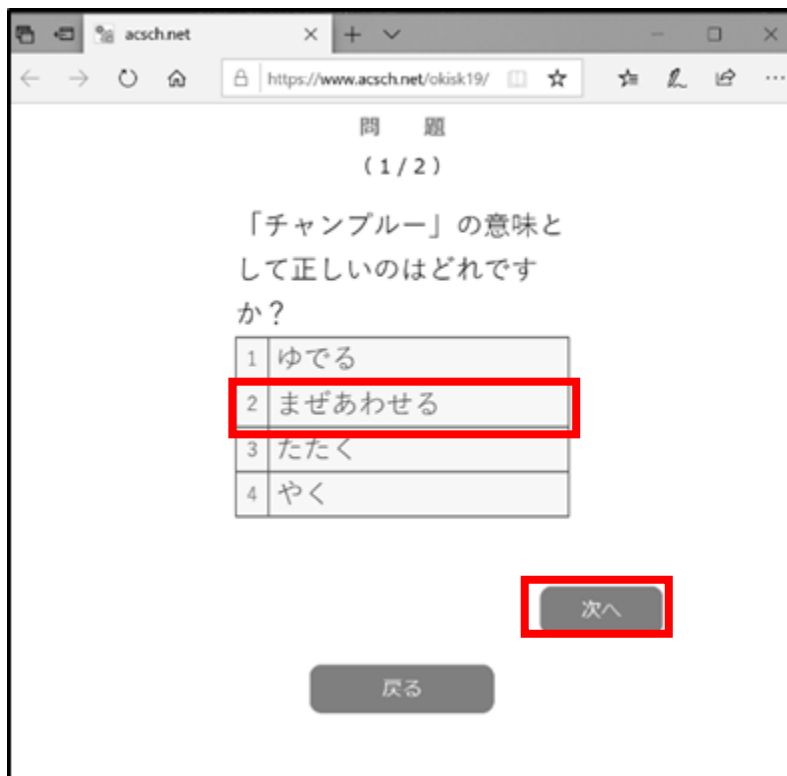


② CBT 機能の構築

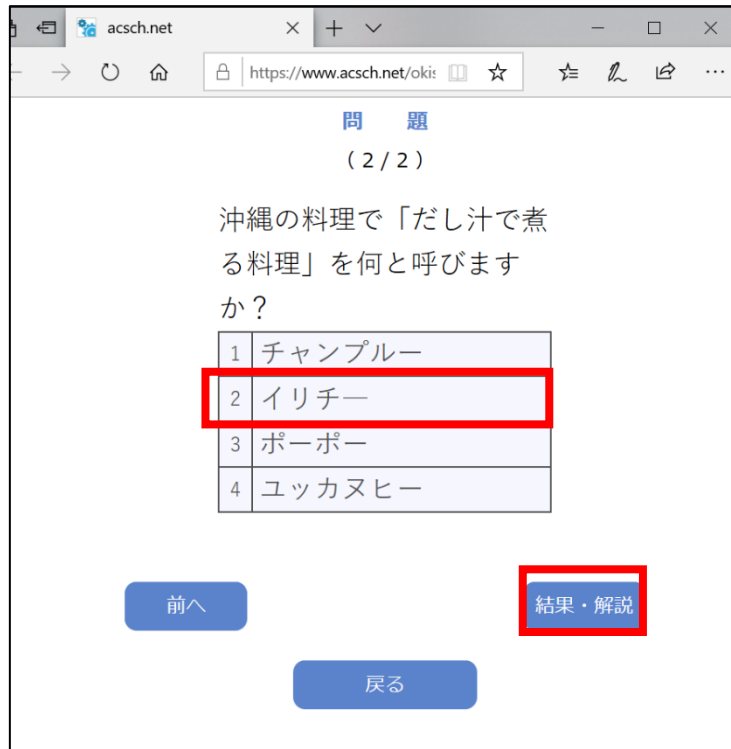
(a) 確認テスト

確認テストは、各項目 2 問ずつ設定し、講義映像内で説明した内容に沿う問題を作成した。受講者が外国人留学生であることから、比較的難易度を低く設定した。また、難読漢字の不使用、文字の拡大を行い、受講者が問題内容の把握、選択肢の理解で障害が生じない程度に調整した。

① 回答方法は、4 つの項目から 1 つ選び「次へ」のボタンを押す。

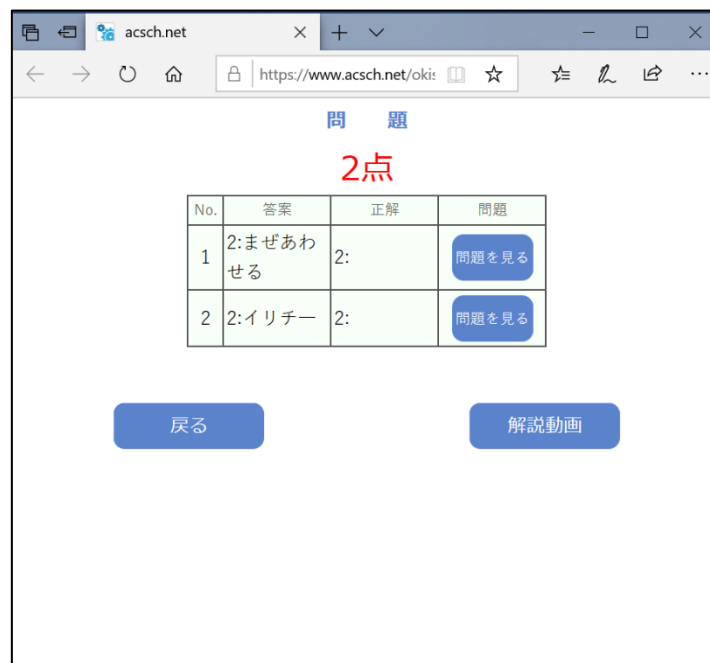


② 「次へ」のボタンを押すと、2 問目の画面に移行する。(次ページ)



③ 2 問目を回答し、「結果・解説」を押す。

④ 正解の数を確認し、「解説動画」を押す。



(b) 解説動画

解説動画では、スライドに表記している問題文と選択肢を読み上げ、正解を発表する。また、正解に関連する解説も行う。1問目の解説後に続けて2問目の解説が行われる設定とした。解説動画には、ベトナム語も併記した。


問 題

(1) 「チャンプルー」の意味として正しいのはどれですか? ở câu hỏi đầu tiên là về chọn đáp án ý nghĩa đúng của từ 'Champurur' – một món ăn của Okinawa.

1	ゆでる	Luộc
2	まぜあわせる	Trộn lẫn
3	たたく	Vỗ
4	やく	Nướng

正 解
2 「まぜあわせる」 : 2 Trộn lẫn

「チャンプルー」は野菜や豆腐を炒めて混ぜ合わせる料理です。ソーミンチャンプルーは、野菜を炒めたものに、ソーめんを混ぜ合わせたものです。他にもゴーヤチャンプルーなども有名ですね。 Champuru' là món ăn được chế biến bằng cách xào rau và đậu phụ rồi trộn đều lên. Trong bài giảng, chúng ta đã có ví dụ hình ảnh về món 'Somin Champuru'. Món 'Somin Champuru', cũng là món có rau xào, nhưng có thêm vào phần trộn mì Somen vào món ăn. Một vài ví dụ điển hình khác



00:03 Goya champuru' (Goya là Khổ qua) – tức là món Champuru rau xào có trộn lẫn khổ qua. 01:39

第2項 キャリア教育教材

「キャリア教育教材」における e ラーニング教材プロトタイプ開発は、昨年度から今年度にかけて開発した「IT 人材のキャリア」である。実施した内容については、日本文化・社会教育教材と同様に、

①アバターを活用して講義映像化

②CBT 機能の構築

- (a) 確認テスト
- (b) 解説動画

が対象となる項目である。

①アバターを活用して講義映像化

まず、講義映像の作成について説明する。今年度実施した「日本文化・社会教育教材」の「沖縄の暮らし」における e ラーニング教材化した項目は、以下の 8 項目である。

- ・ IT 人材の役割・仕事
- ・ IT 人材の現場
- ・ IT をめぐる社会の動き
- ・ IT 業界の動向
- ・ IT 人材となるまでのキャリアパス
- ・ IT 人材のキャリアパス
- ・ IT 人材のキャリアプラン
- ・ IT 人材のキャリアビジョン

講義映像化の方法については、第 1 項にて説明した日本文化・社会教育教材と

同様である。日本文化・社会教育教材と異なる点は、ナレーションの音声とアバターの女性イラストを変更したことである。「沖縄の暮らし」では、明るい女性をイメージであった。それに対して、「IT 人材のキャリア」では、キャリアを積み、落ち着いた雰囲気女性のイラストに設定した。

また、「沖縄の暮らし」とはスライドとイラストの位置を変更した。配置変更の理由は、「IT 人材のキャリア」の講義資料では、画面に向かって右側にイメージイラストを貼り付けていることから、イメージイラストとアバターが重複しようにするためである。「IT 人材のキャリア」の講義映像の一部分を以下に提示する。



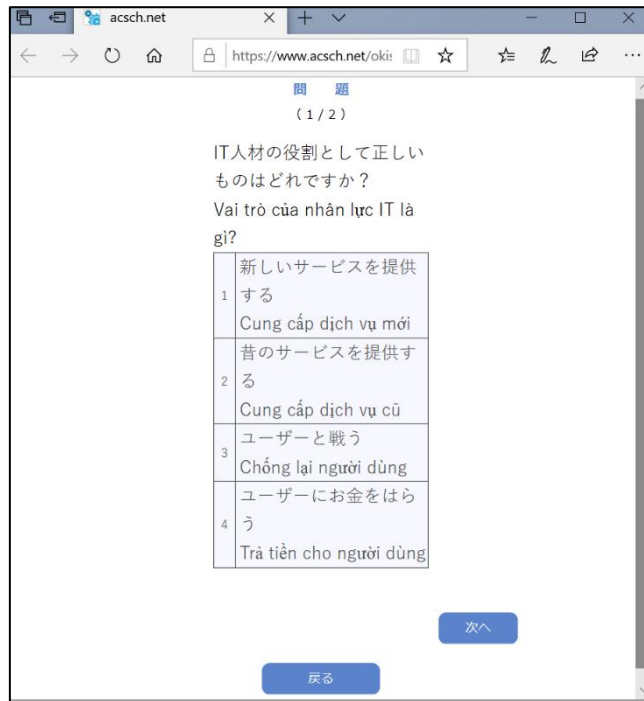
②CBT 機能の構築

(a) 確認テスト

(b) 解説動画

確認テストおよび解説動画については、構成と手順が一緒であるため、次ページに問題例と解説動画の一場面を紹介し、説明は割愛する。

・問題例



・解説動画の一場面

問 題

(1) IT人材の役割として正しいものはどれですか? Vai trò của nhân lực IT là gì?


1 新しいサービスを提供する	Cung cấp dịch vụ mới
2 昔のサービスを提供する	Cung cấp dịch vụ cũ
3 ユーザーと戦う	Chống lại người dùng
4 ユーザーにお金をはらう	Trả tiền cho người dùng

正 解

1 「新しいサービスを提供する」
1: "Cung cấp dịch vụ mới."

IT人材の役割は、ユーザーの業務を効率化することや、他の会社よりも早く新しいサービスや製品を提供することです。

Vai trò của nhân lực IT là nâng cao hiệu suất làm việc của người dùng, giúp công ty cung cấp dịch vụ và sản phẩm mới nhanh hơn các công ty khác. Vì vậy, câu trả lời đúng là số 1.



00:00
01:51

第5節 まとめ

本章では、今年度実施した教育プログラム開発について説明した。教育プログラム開発として実施した項目は、大きく分けて3つである。

まず、教材本格開発である。「日本文化・社会教育教材」「キャリア教育教材」「日型コンピテンシー教育教材」の3科目について教材開発を行った。

「日本文化・社会教育教材」では、昨年度開発した沖縄の生活や文化に関する学習教材「沖縄の暮らし」と同様の形式で、日本全体について学習する日本全体版の教材を作成した。日本全体版は、「日本の自然と信仰」「日本の文化と技術」「日本の社会と生活」の日本全体の概要を学習する3項目に加えて、留学生が日本での生活で必要となる「留学生と日本の制度・慣習」の1項目の合計4項目から構成されている。

「キャリア教育教材」では、今年度に教材プロトタイプ追加開発にて実施した「IT人材のキャリア」の完成イメージに倣い、自動車整備士に関するキャリア教育教材を開発した。教材の構成は、「自動車整備士分野 職業理解」「自動車整備士分野 職業意識」「自動車整備士分野 職業人コンピテンシー」「自動車整備士分野 職業キャリア形成」の4項目である。教材には、1テーマにつき1つのイメージイラストを配置している。イラストも車体や作業着を着た人物を登場させるなどの工夫も行った。

「日本型コンピテンシー教育教材」では、沖縄県が掲げている地域課題を留学生が学習する教材として、沖縄県の代表的な飲み物である泡盛に焦点をあてた教材を作成した。学習目標は、企画提案書の作成であり、学習時間は合計13.5時間で構成されている。

次に、本事業で開発する教育プログラムのシラバス開発である。このシラバスの内容は、昨年度から開発してきた教材プロトタイプと今年度実施した教材本格開発の合計6テーマについてシラバスの開発を実施した。

最後に、eラーニング教材プロトタイプ開発である。今年度に開発した「日本文化・社会教育教材」と「キャリア教育教材」について、講義映像および解説動

画の一部と確認テストの手順を、写真イメージを踏まえながら説明した。

この e ラーニング教材プロトタイプ開発で実施した 2 科目合計 16 テーマについては、今年度実施した実証講座で e ラーニング学習として活用した。来年度も引き続き、必要に応じて修正箇所の検討・改善作業を行っていく。

二〇一九年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
沖縄県における外国人留学生の地域定着支援プログラムの開発・実証事業

成果報告書

一般社団法人

沖縄専門人材開発研究会